

官報

號外 昭和十六年二月二十八日

○第七十六回 帝國議會 衆議院議事速記録第十九號

昭和十六年二月二十七日(木曜日)

午後一時三十四分開議

議事日程 第十八號

昭和十六年二月二十七日

午後一時開議

質問

一 八紘一字ニ關スル再質問(生田

和平君外一名提出)

二 肥料國營並値下斷行ニ關スル質

問(稻田直道君提出)

三 圖書手工工作科教員ノ養成機關

ニ關スル質問(羽田武嗣郎君提出)

四 中等教科書統制ニ關スル質問(岡

田忠彦君外一名提出)

五 全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽

誤謬ニ關スル質問(寺田市正君提

出)

六 木造建物防火改修事業促進ニ關

スル質問(塚本重藏君提出)

七 國策會社ノ整理ニ關スル質問(高

田松平君外三名提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス)

一 昨二十六日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係

ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨ

リ通牒ヲ受領セリ

關東局、臺灣總督府、樺太廳及南洋廳ノ

各特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便

年金ノ事務ノ取扱ニ關スル經費等ニ關ス

ル法律案

木炭需給調節特別會計法中改正法律案

昭和十二年法律第九十號中改正法律案

(米穀ノ應急措置ニ關スル件)

國民貯蓄組合法案

國民更生金庫法案

日本勸業銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

委員會等ノ整理等ニ關スル法律案

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ

如シ

中等教科書統制ニ關スル質問主意書

提出者

岡田 忠彦君 田中 好君

全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關

スル質問主意書

提出者

寺田 市正君

木造建物防火改修事業促進ニ關スル質問

主意書

提出者

塚本 重藏君

(以上二月二十五日提出)

國策會社ノ整理ニ關スル質問主意書

提出者

高田 松平君

津雲 國利君

青木 精一君

(以上二月二十六日提出)

一 去二十五日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル

常任委員左ノ如シ

第一部選出建議委員

伊藤 五郎君

去二十五日常任委員補選結果左ノ

如シ

第一部選出

決算委員 今井 新造君(飯村五郎君

補關)

第四部選出

建議委員 川俣 清吾君(須永好君補

關)

第五部選出

建議委員 高田 松平君(田中邦治君

補關)

第八部選出

決算委員 生田 和平君(増永元也君

補關)

一 昨二十六日常任委員補選結果左ノ

如シ

第一部選出

建議委員 高橋壽太郎君(伊藤五郎君

補關)

一 昨二十六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ

如シ

借地法中改正法律案(政府提出、貴族院送

付)外一件委員

辭任佐竹 晴記君 補關菊地養之輔君

○副議長(田子一民君) 是ヨリ會議ヲ開キ

マス

議員表彰ノ件

○副議長(田子一民君) 諸君、永年在職議

員表彰ノ件ニ付キ御諮リ致シマス、議員野

村嘉六君、同山道襄一君、同大口喜六君、同

秋田清君、同高田松平君、同小山松壽君、同

鳩山一郎君、此ノ七君ハ本院議員トシテ引

續キ當選セラレタルコト九回若シクハ十回、

在職二十五年以上ノ長キニ及ビ、其ノ間恆

ニ國論ノ指導ト民意ノ暢達ニ専念サレ、致

致トシテ憲政ノ爲ニ奉公ノ誠ヲ致サレタル

デアリマス、其ノ積年ノ功勞ハ洵ニ多大デ

アリマス、此ノ七君ガ執レモ衆望ヲ負ウテ

永年在職サレ、其ノ高潔ナル人格ヲ以テ國

家憲政ノ爲ニ盡瘁セラレタル功勞ニ對シ、

衆議院ハ院議ヲ以テ之ヲ顯彰致シタイト存

ジマス、尙ホ表彰文ノ起草ハ議長ニ一任セ

ラレタイト思ヒマス、此ノ議長ノ發議ニ贊

成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(贊成者起立)

○副議長(田子一民君) 表彰セララル諸君

ヲ除キ、起立議員、仍テ全會一致ヲ以テ可

決致シマシタ(拍手)

茲ニ議長ノ手許ニ於テ起草シタル文案ガ

アリマス、之ヲ朗讀致シマス

議員從四位勳二等野村嘉六君衆議院議員

ニ當選スルコト十回在職二十八年ニ及ヒ

恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム

衆議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院

議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

(拍手起ル)

議員正五位勳二等山道襄一君衆議院議員

ニ當選スルコト十回在職二十七年ニ及ヒ

恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム

衆議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院

議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

(拍手起ル)

議員正五位勳二等大口喜六君衆議院議員

ニ當選スルコト九回在職二十六年ニ及ヒ

恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム

衆議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院

議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

(拍手起ル)

議員從三位勳一等秋田清君衆議院議員ニ

當選スルコト九回在職二十六年ニ及ヒ恆

ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム衆

議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院議

ヲ以テ之ヲ顯彰ス

(拍手起ル)

議員從四位勳二等高田松平君衆議院議員

ニ當選スルコト九回在職二十六年ニ及ヒ

恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム

衆議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院

議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

(拍手起ル)

議員正五位勳二等小山松壽君衆議院議員

ニ當選スルコト九回在職二十六年ニ及ヒ

恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム
衆議院ハ君力積年ノ功勞ヲ多シトシ特ニ院
議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

〔拍手起ル〕

議員正三位勳一等鳩山一郎君衆議院議員
ニ當選スルコト九回在職二十六年ニ及ヒ
恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム
衆議院ハ君力積年ノ功勞ヲ多シトシ特ニ院
議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

〔拍手起ル〕

此ノ各文案ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メ
マス、各表彰文案ハ確定致シマシタ(拍手)
此ノ贈呈方ハ議長ニ於テ取計ラヒマス

此ノ場合野村嘉六君ヨリ發言ヲ求メラレ
テ居リマス、之ヲ許シマス——野村嘉六君
〔野村嘉六君登壇〕

○野村嘉六君 只今出道裏一君、大口喜六
君、秋田清君、高田松平君、小山松壽君、
鳩山一郎君及ビ不肖ノ七名ニ對シ、御鄭重
ナル御決議ヲ辱ウ致シマシテ、洵ニ感激ニ
堪ヘマセヌ(拍手)僭越ナガラ私ヨリ一同ニ
代リマシテ、一言御挨拶ヲ申上ゲタイト存
ジマス

吾々七名ハ何レモ明治ノ末期或ハ大正ノ
初年頃ヨリ引續キ本院ニ席ヲ有シテ居リマ
スガ、其ノ間唯國家憲政ノ爲ニ微力ヲ盡シ
タニ止マリマシテ、何等事功ノ見ルベキモ
ノナキハ、顧ミテ慙愧ノ次第ゴザイマス
(ノー)——而モ今日アルヲ得マシタコト
ハ、偏ニ選舉區民諸君ノ御推薦ト、先輩並
ニ同僚諸君ノ御指導ト御援助ニ依ルモノデ
ゴザイマシテ、深ク感謝致シテ居ル次第デ
アリマス(拍手)今ヤ時局ハ日ニ緊迫シ、内
外ノ情勢複雑微妙ヲ極ムルニ伴ヒマシテ、
議會及ビ議員ノ責任モ亦益々重キヲ加ヘ來ツ
タコトハ申スマデモゴザイマセヌ、吾々ハ
更ニ諸君ノ驥尾ニ附シ、驚オニ鞭ウツテ、
諸君ト共ニ今後益々議會人トシテ、國家ノ爲
メ一意専心御奉公致シタイト念願シテ居ル

ノゴザイマス(拍手)茲ニ永年在職ノ故ヲ
以テ功勞表彰ノ御決議ニ預リマシタコトハ
身ニ餘ル光榮ト存ジ、謹ンデ感謝申上グル
次第デアリマス(拍手)

○服部崎市君

議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ政府提出、刑法中改正
法律案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、
其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君)

服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——刑
法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマ
ス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長仲
井間宗一君

刑法中改正法律案(政府提出、貴族院
送付) 報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

一 刑法中改正法律案(政府提出、貴族
院送付)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ
ト議決致候此段及報告候也
昭和十六年二月二十七日 委員長 仲井間宗一

衆議院議長小山松壽殿

〔小字及ハハ委員會議正〕
刑法中改正法律案中左ノ通修正ス

第四條第三號中「第百九十七條ノ罪」ヲ「第
百九十七條乃至第百九十七條ノ四ノ罪」
ニ改ム

第九十六條ノ三 偽計若クハ威力ヲ用ヒ
又ハ談合ニ依リ公ノ競賣又ハ入札ノ公
正ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタル者ハ二年
以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處
ス

公正ナル價格ヲ得ル目的ヲ以テ談合シタル者亦同シ
第百九十七條ノ四 公務員其地位ヲ利用
シ他ノ公務員ノ職務ニ屬スル事項ニ付
斡旋ヲ爲シ又ハ爲シタルコトニ關シ賄

賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シ
タルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十七條ノ五 犯人又ハ情ヲ知リタ
ル第三者ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收
ス其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハ
サルトキハ其價額ヲ追徵ス
第百九十八條 第百九十七條乃至第百九
十七條ノ四ニ規定スル賄賂ヲ供與シ又
ハ其申込若クハ約束ヲ爲シタル者ハ三
年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ
處ス

〔仲井間宗一君登壇〕
○仲井間宗一君 只今上程サレマシタ刑法
中改正法律案ニ付キマシテ、委員會ニ於ケ
ル審議ノ經過並ニ結果ニ付キ御報告ヲ申上
ゲマス、本法律案ノ内容及ビ提案ノ理由ハ
相當多岐ニ亙リ、詳細ヲ極メテ居リマス
ノデ、速記録ニ依ツテ御承知ヲ御願ヒシタ
イト存ズル次第デアリマス、本案ノ審議ハ
二十四日ヨリ今日マデ四回ニ亙リ開催ヲサ
レマシタガ、其ノ間政府ト委員會ト間ニ極
テ熱心ナル質疑應答ガ行ハレタノデアリマ
ス、是亦詳細ナル點ハ速記録ニ依ツテ御承
知ヲ御願ヒスルモノデアリマス

本日江原三郎君ヨリ法案ノ一部ニ對シテ
修正案ガ提出サレタノデアリマス、即チ御
手許ニ差上ゲマシタ通りニ、本條文ノ第九
十六條ノ三ノ條文中「又ハ談合ニ依リ」ノ七
字ヲ削リ、且ツ同條第二項トシテ「公正ナ
ル價格ヲ害スル目的ヲ以テ談合シタル者亦
同シ」トノ一項ヲ加ヘ、及ビ第百九十七條
ノ四ノ條文ヲ全部削除スルノ二點ゴザイ
マス、其ノ修正ノ理由ト、之ニ關スル政府
ノ答辯トニ付キ、極ク簡單ニ其ノ要點
ヲ御紹介申上ゲマスレバ、第九十六條ノ三
ニハ「偽計若クハ威力ヲ用ヒ又ハ談合ニ依
リ公ノ競賣又ハ入札ノ公正ヲ害スヘキ行為
ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓
以下ノ罰金ニ處ス」トアリマシテ、談合ナ
ルモノガ如何ニモ偽計若クハ威力ト同列

ニ取扱ハレマシテ、常ニ違法性ヲ有スルモ
ノナリト誤解ヲ招キ、本法運用ノ際、單
ニ談合ノ事實アレバ、之ヲ以テ直チニ競賣
又ハ入札ノ公正ヲ害スベキ行為トシテ摘發
セラレル虞ガアル、仍テ談合ニハ違法性ア
ルモノト、違法性ナキモノトアルコトヲ明
確ニナシ置クコトヲ必要トスルノデアリマ
ス、政府ハ之ニ對シマシテ、公ノ競賣又ハ
入札ノ公正ヲ害スベキ談合ナルコトハ法文
上ニ明カデアルト信ズルカラ、修正ノ理由
ナキ旨ノ答辯ガアツタノデアリマス

次ニ削除ノ條文タル第百九十七條ノ四ニ
付キマシテ申上ゲマスレバ、同條ニハ「公
務員其地位ヲ利用シ他ノ公務員ノ職務ニ屬
スル事項ニ付斡旋ヲ爲シ又ハ爲シタルコト
ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約
束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス」ト
アリマス、此ノ條文ノ性格ノ點ヲ利用シ
ト云フ意義及ビ運用上遺憾ノ點頻發スル虞
アルコト等ニ關シマシテ、凡ユル角度カラ實
例等ヲ舉ゲテ各委員カラ熱心ナル質疑ヲナ
シ、政府モ亦親切ナル答辯ガアツタノデア
リマス、極ク簡單ニ輪廊ダケヲ御紹介申上
ゲマスレバ、此ノ條文ノ性格即チ法益ハ、
現行法ノ賄賂罪ト同ジク、公務員ノ職務ノ
公正ヲ維持スル點ニアルノカ、或ハ地位ヲ利
用スル公務員ノ綱紀ヲ肅正セントスル點ニ
アルカトノ間ニ對シ、政府委員ハ本條モヤ
ハリ現行法ノ賄賂罪ト同ジク、公務員ノ職
務ノ公正ヲ維持スル法益タルコトガ主眼デ
アツテ、地位ヲ利用スル公務員ノ肅正ハ從
タルモノデアリ旨ノ答辯ガアツタノデアリ
マス、本條ノ示ス所ニ依レバ、職務ノ公正
ヲ害スル邪魔物ハ地位ノ利用其ノモノデア
ル、隨テ地位ヲ利用シタル公務員ガ、他カ
ラ利益ヲ收受スルヤ否ヤハ、職務ノ公正ニ
何等影響ヲ與ヘルモノデナク、全ク無關係
デアアルガ、ソレデモ賄賂罪ノ法益ヲ有スル
ノデアアルカトノ間ニ對シ、政府委員ハ、利
益ヲ得ルコトニ依ツテ斯カル行為ガ行ハレ
易イノダトノ答辯デアツタノデアリマス

官報號外

院議事速記錄第十九號 刑法中改正法律案

第二讀會 第三讀會 昭和十四年度第二豫備

山ノ件外五件 二八三

昭和十六年二月二十七日

委員長 山本 厚三

衆議院議長小山松壽殿

〔山本厚三君登壇〕

○山本厚三君 昭和十四年度第一豫備金支出ノ件外五件ニ關スル承諾ヲ求ムル件ノ委員會ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス

議案ノ内容ハ既ニ御承知ノコトト存ジマスルカラ省略ヲ致シマス

委員會ハ二十四日ヨリ本日ニ至ルマデ四回開會ヲ致シマシテ、慎重審議ヲ致シマシタ、其ノ間委員池本、田村、淺沼、伊藤、窪井ノ諸君カラ、重要ナ御質疑ヲ重ネラレマシタガ、其ノ質疑ハ主トシテ昭和十五年度第一、第二豫備金中、九十三萬圓ノ翼贊會ニ對スル補助金支出ニ關シテナサレタノデアリマス、之ニ對シテハ相當重要ナ質疑應答ガアリマシタガ、速記録ガ間ニ合ハナイヤウデアリマシタカラ、其ノ主ナル點ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス

第一ニハ、九十三萬圓ノ豫備金支出ハ、一月、二月ノ既ニ議會ヲ召集開會中ノ經費デアルニモ拘ラズ、ナゼ追加豫算トシテ要求ヲシナカッタカ、之ヲ豫備金カラ支出スルコトハ穩當デナイデハナイカト云フ御質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ノ御答辯ハ、一月、二月ニ必要ナ經費デアルケレドモ、之ヲ追加豫算ニ計上シテ居ツテハ間ニ合ハナイ、ドウシテモ必要デアルト云フカラ豫備金カラ出シタノデアアル、又委員ヨリ、ソレナラバ何カ斯ウ云フヤウナ種類ノ豫備金支出ニ依ツタ實例ガアルカト云フコトニ對シマシテハ、政府ヨリ資料ヲ提供セラレマシテ、相當類似ノ實例ガアリマシタ、是ハ相當澤山アリマシタガ、其ノ中稍、金額ノ大キナモノヲ申シマスル、商工省ノ輸出入品臨時措置費補足金ノ中、是ハ十三萬圓出シテ居リマス、是ハ十四年度デアリマス、又昭和十五年度ニ於キマシテ、食糧増産應急施設經費ノ中ニ十三萬圓、農林省ニ出シテ居リマス、ソレカラ大日本產報聯ノ二十

二萬圓、ソレカラ此ノ大政翼贊會ノ九十三萬圓、斯ウ云フヤウナ實例ガアツテ、前ノ理由ト共ニ支出シタノデアアル、斯ウ云フ政府ノ御答辯デアリマシタ、之ニ對シテ委員カラハ、ドウシテモ不當デアルカラ承知ガ出來ヌト云フヤウナ意味ノ御意見ハナカツタノデアリマス

次ニ翼贊會十六年度ノ補助金八百萬圓ノ交付方法ハ、監督ハドウスルノデアアルカ、豫算總會等ニ依リマスル、若シ之ヲ交付ヲ致シマシテ、不用ナ場合ニハ不用額トシテ殘ス、斯ウ云フヤウナ御説明ガアツタノデアアルガ、渡シテシマツタモノヲ返スト云フコトハ、實行ガ出來ナイデハナイカ、此ノ質問ニ對シマシテ政府ハ、大體四期ニ分割ヲシテ交付スル積リデアアル、又經理上ノ監督ニ付テハ十分ニ嚴重ニ致ス積リデアツテ、ソレニ對シテハ指令ヲ出シテ居ル、第一、事業計畫ヲ立テシメテ、目的以外ニ使用スルコトヲ嚴禁スル、又借用金、寄附金ノ受理等ハ、大臣ノ承認ヲ得ナケレバイケナイト云フヤウナ、十項目ニ互ル嚴重ナル指令ヲ出シテ居ツテ、是デ取締リ積リデアアル、若シ之ニ違反スルヤウナ場合ハ、一部又ハ全部ノ返戻ヲ命ズルコトモ出來ルヤウニナツテ居ル、斯ウ云フ御答辯デアリマス

第三ニハ、翼贊會ノ首腦部カラシテ、議會ニ於ケル政府ノ言明ヲ裏切ルガ如キ意見ノ發表ガ度々重ネラレト云フコトハ、洵ニ遺憾千萬デアアルガ、政府ハ飽クマデ其ノ聲明ヲ斷行シ得ルカ、斯ウ云フ質問ヲ致シマシタニ對シテ、内務大臣ハ、第一ニ議會ノ言明ハ必ズ實行シ得ル心底デアアル、第二ハ新聞ノ記事ヲ一々具體的ニ申上ゲ兼ネルガ、政府ノ言明ニ抵觸スルガ如キコトヲ申シテ居ルト云フコトハ非常ナ間違ヒデアアル、今後ハ十分ニ取調ノ上適當ニ處置ヲスル考ヘデアアル、是ガ豫算ニ關スル問答デアリマス

最後ニ第四トシテハ翼贊會ノ性格ヲ明カニシテ、其ノ取締リナス上ニ於テモ、基準

トスベキ特別ノ法規ヲ制定スル必要ヲ認メスカ、之ヲ制定スレバ性格ガ明瞭ニナルカラ、色々ノ誤解モ生ジナイコトニナラウ、例ヘバ國民組織法ト云フヤウナ意味ノモノヲ制定スル意思ガナイカ、之ニ對シテ内務大臣ハ、今ハ其ノ考ヘガナイ、治安警察法デ間ニ合フト思ツテ居ル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ

ソコデ本日午後ニ委員會ヲ開キマシテ、採決ノ結果、滿場一致、此ノ六案ニ承認ヲ與フルコトニ決シマシタ次第デアリマス、此ノ段御報告ヲ申上ゲマス〔拍手〕

○議長〔小山松壽君〕 勸議ノ趣旨辯明ヲ許シマス——植原悦二郎君

〔植原悦二郎君登壇〕

○植原悦二郎君 一私ハ委員長ノ報告ニ對シ昭和十五年度第一豫備金支出中、大政翼贊會補助金九十三萬圓ノ部分ハ承諾スベキモノニアラズト勸議ヲ提出スル者デアリマス〔拍手〕御承知ノ通り第一豫備金ハ、豫算款項目ヲ有スル費目中、不足ヲ生ジタ場合ニ支出スル規定デアリマス、第二豫備金ハ、天變地異若シクハ不可抗力、其ノ他政府ノ豫期セザリシ事項ガ發生致シマシテ、必要ナル費用ヲアツタ場合ニハ、之ヲ支出スル規定ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ大政翼贊會ハ、何等ノ法律上ノ根據ヲ持ツテ居ルモノデナイノミナラズ、政府ノ豫期セザリシモノデモナイノデアリマス〔ヒヤ／＼〕大政翼贊會ガ過去、現在ノ狀態ニ於テハ、憲法ニ背反シ、立憲政治ヲ紊ルモノデアリマスルコトニ付テハ、一點ノ疑問ガナイノデアリマス〔拍手〕或ル者ハ翼贊會ヲ現狀ノ狀態ニ置イテハ、百害アツテ一益ナキモノトサヘ斷言スル者ガナイノデアリマス〔拍手〕而モ此ノ九十三萬圓ノ第二豫備金支出ノ決濟ハ十二月二十日ニナサレテ居リマス、而シテ其ノ支出ハ一月十三日デアリマス、是ハ皆様方御承知ノ通り、議會召集後ノコトデアリマスガ故ニ〔拍手〕斯カル緊急已ムヲ得ザルモノデナイ

限リハ、當然追加豫算トシテ、若シ必要ナラバ之ヲ議會ニ要求スルノガ當然デアリマスノニ拘ラズ〔拍手〕議會再開ノ日目雖ノ間ニ迫ルノニ、政府ガ斯カル措置ヲ執リマシタコトハ、何トシテモ不當ナル支出ト云ハナケレバナナイノデアリマス〔拍手〕

私ハ此ノ大政翼贊會ニ對シテ、第二豫備金ヨリ九十三萬圓ヲ政府ガ支出致シマシタコトヲ、不當ナリト主張スルニ付キマシテ、更ニ進ンデ翼贊會ノ成立致シマシタ經過及ビ其ノ實體、性格ヲモ質サナケレバナラナイ必要ガアルト存ズルノデアリマス〔拍手〕時局ハ非常ニ重大デアリ、國際情勢ハ又頗ル險惡デアリ、支那事變勃發以來既ニ三年半ヲ經過致シテ居リマス、外ニ於テハ我が忠勇義烈ノ將兵諸士ハ、萬難ヲ排シテ凡ニ惡戰苦闘ヲ繼續シテ居リマス、又内ニ於テハ中小商工業者ハ祖矢傳來ノ家業ヲ喪失セントシテ居ル〔拍手〕農漁村民ノ苦難ハ察スルニ餘リアルモノガアル〔拍手〕然ルニ何レモ皆時局ヲ認識シ、職域奉公ノ誠ヲ效シテ居ルノデアリマス、此ノ時ニ當リ國民ヲ代表シ國政ニ參畫シツツアル吾々ハ、其ノ職責ノ一層重且ツ大ナルコトヲ痛感スベキデアアル、言フマデモナク議員ノ職責ハ、政府施政百般ヲ監視シテ萬遺憾ナカラシムルト共ニ、國民ノ負擔ニ係ル國費ノ使途ニ付テハ、嚴重ナル査定ヲ施サネバナラスノデアリマス〔拍手〕今ヤ國際的危局ニ直面シ、國防ノ充實ト生産ノ擴充トニ付テハ、國民ノ總力ヲ傾注スベキデアアル、一錢一厘タリトモ他ノ冗費ヲ許シテハナリマセヌ〔拍手〕茲ニ大政翼贊會ノ經費ヲ論ズルニ付テハ、先ヅ翼贊會ノ編成セラレシ経緯ト其ノ實體、性格トヲ檢討スベキデアアル、近衛公爵ハ大政翼贊會編成ニ先ダチ、屢新體制樹立ヲ標榜セラレ、政黨ノ解消ト國民再組織ノ必要ヲ力説サレマシタ、近衛公ハ昨年七月二十三日夜「ラヂオ」ニ依リ左ノ如ク放送サレテ居リマス「思フニ從來政黨ノ弊害ハ二ツアリマス、其ノ一ツハ、立黨ノ趣旨ニ

於キマシテ自由主義ヲ執リ、民主主義ヲ執リ、或ハ社會主義ヲ執リマシテ、其ノ根本ノ世界觀、人生觀ガ既ニ國體ト相容レナイモノガアルト云フ點デアリマシテ、是ハ今日急速ニ轉回シ、拔本的ニ改正シナケレバナラナイ所デアリマス云々ト、是ハ何タル不謹慎ナル言辭(拍手)謂ハ暴言ト言ウテモ辯解ノ辭(拍手)近衛公ハ帝國憲法ハ明治大帝ガ如何ニ御苦慮遊バサレテ大御心ニ依リテ制定セラレシモノナルカ、歴史的ノ事實ヲ御承知アツテ然ルベキデアリマス、又時代ヲ建設セシ幾多ノ諸先輩ガ、如何ニ萬機公論ニ決スト云フ

明治大帝ノ御誓旨ヲ尊重セラレ、其ノ實現ニ苦心セラレシカ、憲法草案ノ起草者ノ一人ナル伊藤公ノ如キハ、議會創設當時ニ於ケル憲政運用ノ實驗ニ徴シ、議會政治ノ完璧ヲ期シ、憲政有終ノ美ヲ濟サンニハ、健全ナル政黨ニ依ラザルベカラザルコトヲ痛感セラレ、位階勳等ヲ拋擲シ、丸裸カニナツテ政黨ヲ作ラシテ企テ、悲壯ナル決意ノ下ニ立憲政黨ヲ創設セラレシコトハ、歴史ニ明記サレテ居ル所デアリマス(拍手)近衛公ニ雖モ、ヨモヤ改進黨ノ創設者大隈侯、自由黨ノ創立者板垣伯、同志會ノ創立者桂公ヤ、立憲政友會ノ創設者伊藤公ヲ、反國體主義者ナリト斷言セラレヌデアリマセウ(拍手)

何レニセヨ、近衛公爵ノ憲法又ハ政黨ニ對スル誤解ガ、政黨解消ノ推進力トナリ、新體制、國民再組織ノ運動ト化シ、遂ニ大政黨贊會編成ノ結果ヲ招來セシコトニ付テハ疑ヒゴザイマセヌ、我が國ハ上ニ一天萬乘ノ皇室ヲ戴キ、下萬民ハ一視同仁 陛下ノ赤子デアリマス、斯クテ君民一如ハ我が國體ノ精華、萬邦無比、萬古不易ノモノデアリマス、我が帝國ニ於テハ苟クモ國民再組織ナド云フコトハ、斷ジテ許サルベキコトデアリマセヌ(拍手)然ルニ大政黨贊會ナルモノハ近衛公ヲ總裁トシ、各地方長官ノ肝煎ニテ、各町村各部各落マデ細胞的組織ニ編成セラレツツアル、實ニ大掛リノ大組織デアリマス、若シ此ノ龐大ナル國民組織ガ完

成セラレ、政府主張ノ如ク高度ノ政治性ヲ有シ、所謂上意下達、下情上達ノ機關タルモノトスレバ、私ハ近キ將來我が國ニ於テ實ニ好マシカラザル事態ノ發生ヲ懸念スル者デアリマス(拍手)蓋シハ恐ラク近衛公爵ノ意思ニ副フモノデハナカラウト思ハルマス、併シ事實ノ出現ハ恐ラク近衛公ニ雖モ堰止メラレヌモノニナルデアリマセウ、私ハ翼贊會ノ現狀ニ對シテ反對スル少クモ三ツノ理由ヲ持ツテ居リマス

其ノ一ツハ日本ノ赤化デアリマス、何ト云ウテモ翼贊會組織ハ「ソ」聯「ボリシェヴィキ」又ハ「ドイツ」ナチ「ニ酷似シテ居ルモノデアリマス、而モ此ノ組織内ニハ奇矯過激ナル言論ヲ敢テスル者ガ多數存在シテ居リマス、革新ナル美名ヲ藉リテ「ソビエト」ノ赤化組織ヲ我が國ニ移植セント計畫シテ居ル者モ存在スルノデハナイカト疑ハル事實ガアルノデアリマス(拍手)國民再組織ナル奇怪ナル標語モ、此ノ間ニ發生セラレテ居リマス、國家ノ前途ヲ想フ者ニシテ、誰ガ此ノ事實ヲ看過スルコトガ出來マセウカ(拍手)翼贊會ハ果シテ赤化ノ溫床ニアラザルカ、私共ハ疑問ヲ抱クモノデアリマス

其ノ第二ハ、此ノ強力ナル翼贊會ノ存在ガ、幕府の勢力ノ出現ヲ生ズル虞アルコトデアリマス(拍手)立憲政體ノ下、斯カル危險ナル團體ノ存在ハ、斷ジテ許容スルコトハ出來マセヌ(拍手)其ノ第三ハ、憲法ニ背反シ憲法ノ精神ヲ蹂躪シ、國政ヲ紊ル虞アルコトデアリマス、政府ハ大政黨贊會ハ政府ト表裏一體ニシテ、政府ノ意ヲ體シ、上意下達、下意上達ノ機關ニシテ、決シテ憲法ニ反スルモノニアラズト主張シテ居ル、是ハ誤レルノ甚ダシキモノデアリマス、帝國憲法第四條ニ於テ「天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リテ之ヲ行フ」ト明示サレテ居リマス、此ノ意義ハ敢テ説明ヲ要スルマデ

モナク、我が國政治ノ運籌行使ハ、總テ此ノ憲法ノ條規ニ據ルベキモノニシテ、他ニ如何ナル方途ヲモ許サザルコトヲ明示サレタモノデアリマス(拍手)此ノ規定ニ依リ、畏多イコトデゴザイマスガ、天皇ガ御自身ト雖モ此ノ憲法ノ條規ニ依ラザレバ何事ヲモナシ給ハザルコトノ大御心ヲ明カニシ給ヒシモノト拜察スルコトガ出來マス、而シテ統治權ハ三ツノ機能ヲ有スルモノ、即チ立法、行政、司法ノ三權、而モ此ノ三權ノ行使ニ關シテハ、儼トシテ動カスベカラザル憲法上ノ規定ガ存シテ居リマス、即チ憲法第五條ニ於テハ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト明示シ、行政權ニ付テハ第五十五條ニ於テ「國務各大臣ハ

天皇ヲ輔弼シ其ノ責任ヲ定メ、又第五十七條ニ於テハ「司法權ハ 天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト規定サレテ居ル、隨テ我が國ノ政治ノ運籌、政治ヲ行フ機關ハ總テ此ノ憲法ノ條規ニ準據シ、苟クモ之ヲ紊ルガ如キコトハ斷ジテ許サレナイコトデアリマス(拍手)政府ガ行政上、上意下達ヲ全ウセントスレバ、各省ヲ初メ微細ナル行政機構ガ完備シテ居ル、又下意上達ニ付テハ國民代表スル帝國議會ガ嚴存シテ居ル、司法權ハ 天皇ノ名ニ於テ裁判所ガ行フコトニナツテ居リマス、此ノ以外ニ大政黨贊會ヲ編成スルガ如キコトハ、屋上屋ヲ重ヌルモノニシテ、行政權及立法權ノ行使運籌ニ對シ、唯混亂ト紛淆トヲ生ゼシムルノミデアリマス(拍手)而モ大政黨贊會ハ何等法律上ノ根據ヲ有シテ居ラナイ、政府ハ是ガ治安警察法ノ政事結社ニアラズト言明シテ居ル、全然法律上ノ根據ナキモノガ上意下達、下意上達ノ政治行動ヲ敢行シ、是ガ憲法ニ違反セズトハ、果シテ如何ナル理由デゴザイマセウカ(拍手)是レ正ニ憲法政治ヲ紊ルモノ、明カニ憲法ノ精神ヲ蹂躪スルモノニアラズシテ何ゾヤデアリマス(拍手)

政府ノ大政黨贊會ニ關スル質疑應答ニ於ケル答辭ハ、全ク矛盾撞着、支離滅裂、唯詭辯ヲ弄シテ一時ヲ糊塗スルノミ、驚クノ外ハアリマセヌ(拍手)政府ハ大政黨贊會ハ高度ノ政治性ヲ有シ、上意下達、下意上達ノ政治行動ヲ行フモノ、政事結社ニアラズト強辯シ、公事結社ナリト主張シテ居ル、然ラバ公事結社トハ如何ナルモノカ、實例ヲ舉ゲテ之ヲ説明セヨト議員ノ要求ニ對シ、治安警察法ノ委員會ニ於テ、司法省刑事局長ハ、公事結社トハ政治以外ノ公共ノ利益ニ關スル結社ヲ謂フ、例ヘバ衛生組合ノ如シト答ヘテ居ル、天下何人ト雖モ大政黨贊會ノ實體、性格、其ノ活動狀態ヲ以テ、衛生組合ト同列ニ看做ス者アラシヤデアリマス(拍手)政府ノ答辭概ネ斯ノ如クデアル

尙ホ事實ニ徴シテ大政黨贊會ナルモノノ實體ヲ檢討スルニ、翼贊會ハ總理大臣之ヲ統率ストアリ、議會局ハ其ノ下ニアリテ立法府ヲ左右スル態勢ヲ有シテ居ル、翼贊會ノ役員ニハ現役軍人アリ、檢事アリ、多數ノ官吏モアル、サウシテ總理大臣ノ命令一下、高度ノ政治性ヲ持ツテ政治的活動ヲ行フコトヲ標榜シテ居ル、是デ立法府ノ權威ガ保持出來ルカ、司法權ノ確立ガ出來ルカ(拍手)大政黨贊會ノ實質ハ、何ト辯解シテモ、獨伊流ノ一國一黨ト揆フニスルモノニアラズ、究極スル所幕府の存在ヲ意味スルコトハ、多言ヲ費ス必要ハアリマセヌ(ヒヤ)

拍手)而モ是ハ地方ノ下部細胞組織ヲ以テ基礎トシテ居ル、府縣町村ニ支部ガアリ、支部ニ役員ガアル、其ノ機構ニ於テ優ニ地方自治團體ニ匹敵スル形デアアル、其ノ結果ハ國內ニ二個ノ政府ガアリ、二ツノ議會ガ成立シテ、命令ハ一途ニ出デズシテ、民ノ迷フコト洵ニ甚ダシキモノガアル(拍手)政府ハ大政黨贊會ハ政府ト表裏一體ト言ヒナガラ、中央ニ於テモ翼贊會ノ幹部ハ政府ト全ク異ツタ外交政策ヲ掲ゲ、又經濟翼贊會ト稱シ、社會主義、共產主義ニ類スル言辭ヲ弄シテ居ル、而モ彼等ノ言説ハ常ニ他ヲ排撃シ、彼等ノ一團以外ニ日本ヲ愛スル者ガナキ

二八五

ガ如キ口調ヲ羅列シテ居ル(拍手)洵ニ忌ハシ
キ極ミデアリマス、憂國ノ士ヨリ翼賛會ノ
内情ヲ懇ニテ來テ居ル手紙ガアリマス、茲
ニ之ヲ朗讀シテ御參考ニ供スルコトヲ御許
シテ願ヒタイノデアリマス、先生、吾等同
志ノ翼賛會ニ對スル非難ヲ二、三左ニ掲ゲ
テ下意ヲ上達シ、以テ先生ノ御賢慮ニ俟テ
タイト思ヒマス、翼賛會ノ經費トシテ八百
萬圓モノ巨額ノ國費ヲ支出スルコトハ絕對
ニ不可ト存ジマス、各方面トモ緊縮ヲ旨ト
セネバナラス今日、殊ニ國民生活ノ窮迫ヲ
告ゲテ居ル現在ノ社會情勢ト、國際情勢ニ
依ル諸般ノ生産擴充、軍備充實ガ要望サレ
テ居ル際、斯クノ如ク巨額ノ國費ヲ翼賛會
ニ費スコトハ、實ニ心外ニ堪ヘヌ次第デア
リマス、況ヤ次ノヤウナ不眞面目ナ翼賛會
ニ對シテハ尙更ノコトデアリマス、一體新
體制ヲ目指シテ乘出シタ翼賛會ハ、先ヅ率
先シテ其ノ實ヲ示サナケレバナラス、翼賛
會ノ役員ナドハ手辨當デヤル位ノ覺悟ト熱
ガナケレバナラス、ヨリ良キ生活、ヨリ良
キ衣食ヲセンガ爲メ、翼賛會ニ入レルガ如
キハ以テ外デアリマス(拍手)明治維新
ノ大業ハ若イ者ガヤリ遂ゲタカラ、今度モ
若イ者ニ依ツテ成シ遂ゲルノダト言ツテ、
盛シニ若イ者ヲ集メテ居ルノハ宜イガ、明
治維新ノ志士ハ今ノヤウニ溫ク、ト澤山
ノ月給ヲ貰ツタリ、善美ヲ盡シタ東京會館
ニ溫マリナガラヤツタノデハナイ(拍手)彼
等志士ハ妻ハ病床ニ臥シ、兒ハ飢ニ泣ク中
ヲ、而モ死生ノ間ヲ奔走シテ、眞ニ臣道實
踐、滅私奉公、以テ其ノ大業ヲ完成シタノ
デアリマス、所ガ翼賛會ノ連中ハドウデス
カ、先ヅ翼賛會ニ入ルニ當ツテ生活ノ保障
ヲ云々シ、翼賛會ガマダ目鼻モ揃ハヌ内カ
ラ、ヤレ局長ガ一萬圓ダ、ヤレ部長ガ七千
圓ダ、ヤレ副部長ガ四千圓ダ、ヤレ高級
囑託ガ、ヤレ何ダ彼ダト、金ヲ取ルコト
バカリ考ヘ、恰モ失業救済所ノ如キ觀ヲ
呈シ、蟻ノ甘キニ付クガ如ク、我レモ
我レモト國費ノ上ニ集マル狀態ハ、全ク

以テ臣道實踐、滅私奉公ヲシテ面ヲ掩
ハシムルモノガアリマス(拍手)試ミニ
今一度翼賛會ニ踏入ツテ見レバ、ソコニ如
何ニ多クノ仕事ナキ人間ガウヨ、ソコニ居
ルカニ一驚ヲ喫スルデアリマセウ、其ノ事
務所ノ如キモ、舊議事堂跡アリ、舊政民兩
黨ノ本部ノ空家ガアリ、是等ノ廢物利用ス
レバ足リルニ拘ラズ、コバク「建」家サ
ニ齊エテカ、或ハ殊更ニ權威付ケントスル、
所謂鬼面人ヲ驚カスノ類カ、東京會館ノヤ
ウナ豪華ナ建物ヲ、年ニ二十何萬圓モノ巨
額ヲ投ジテ借受ケ、善美ヲ盡シタ館内デ事
務ヲ執ラントスル如キハ、營利會社ナラバ
イザ知ラズ、苟クモ國費ヲ以テ、而モ新體
制ヲ標榜スル翼賛會ガヤルニ至ツテハ、言
語道斷ト言ハネバナリマセヌ、東京會館ヲ
借受ケタニ付テハ、色々ノ理由モアリマセウ
ガ、併シ無償デ借りタノナラバ兎ニ角、巨
費ノ國費ヲ之ニ支出スルニ至ツテハ、如何
ナル理由ガアルニシテモ、國民ノ目ニ映ジ、
頭ニ浮ブ東京會館其ノモノニ對シテ、國民
的感情ガ之ヲ許シマセヌ、現時ノ如キ場合
ハ翼賛會トシテモ特ニ其ノ行方所、其ノナ
ス所ニ意ヲ用ヒテ、民心ニ及ボス影響等ヲ
モ十分考慮セキデアラウ存ジマス、極
密院ヲ會計檢査院ノヤウナ國家重要機關デ
スラモ、年ニ全經費二十萬圓内外デハアリ
マセヌカ、以上考ヘテ來ルト翼賛會ハ果シ
テ新體制ノ氣構ヘアリヤト問ヒタクナリマ
ス、事實翼賛會ニ入ツテ殆ド皆ノ者ハ前ヨ
リモ二倍三倍ノ月給ヲ轉身シテ居マス、食
フニ多額ノ月給アリ、居ルニ善美ノ會館ア
リ、之ヲシモ暖衣飽食ト言ハズシテ何ト申
シマセウカ、近衛公ハ所謂一人ノ暖衣飽食
ヲ許サズト言ハレマシタ、アレハ唯言葉ノ
綾カラ言ハレタノデアリマセウカ、ソレト
モ翼賛會ノ連中ダケヲ除イタ、他ノ國民ニ
言ハレタ御託宣デアリマセウカ(拍手)吾
等ハ翼賛會運動ニハ固ヨリ雙手ヲ擧ゲテ贊
成デアリ、臣道實踐、職域奉公ニ對シテモ、
毎日其ノ足ラザルコトヲ懼レテ一生懸命ヤ

ツテ居ル者デアリマスガ、翼賛會ノ右ノ如
キ不眞面目ニ對シテハ憤慨措ク能ハザル者
デアリマス(拍手)「現ニ或ル役人カラ轉身
シテ來タ翼賛會ノ重要地位ニアル一人ハ、
最近翼賛會ノ豫算ガ餘リ多クヲ期待シ難イ
狀態トナツテ來タノヲ見テ、シマツタコトヲ
タウト知人ニ洩ラシテ居ル(笑聲)」是ハ蓋シ
ノ翼賛會ノ影ノ薄クナツタノヲ見テ、其ノ轉身
ノ早マツタコトヲ悔ミ、早クモ翼賛會ニ嫌
氣ガサシテ來タモノデ、彼等ガ口ニ明治維
新ノ志士ヲ銜取りナガラモ、其ノ心根ハ斯
クノ如ク、翼賛會ニ對シテハ眞ノ誠意モ熱
意モナク、唯前ヨリモヨリ好キ多額ノ月給
ニ動かサレテ轉身シタニ過ギナイモノデア
リマス(拍手)「彼等ガ如何ニ「ラデオ」ノ前
ニ叫ビ、地方講演ニ出掛ケテモ、ソレハ結局
出張旅費ヲ放送料稼ギ以外ニ何物モナイノ
デアリマス(拍手)」其ノ講演、其ノ放送ヲド
ウシテ吾々ガ眞誠シテ聴クコトガ出來マセ
ウ、最近多額ノ月給ヲ取出シタ翼賛會ノ連
中ノ中ニハ、此ノ頃盛シニ惡所通ヒヲシ、
大イニ氣焰ヲ上ゲテ居ル者ヲ目撃シタコト
一再デアリマセヌ(拍手)之ヲ見デモ全ク
一翼賛會ヲ呪ヒタクナリマス、多クノ金ガナ
ケレバ出來ヌヤウナ翼賛會運動ナラバ止シ
テ賅ヒタイ、彼等ハ金ノ多イコトガ勢力ヲ
張ル唯一ノ方法デアリ、金ガナケレバ仕事
ガ出來ヌヤウニ考ヘテ居ルガ、思ハザルモ
甚ダシイノデアリマス、翼賛運動ノ如キ性
質ノ仕事ハ、普通ノ事業トハ其ノ趣ヲ異ニ
シ、金ノナイコトガ却テ其ノ仕事ヲ尊クシ、
金ナクシテヤツテコソ其ノ權威ヲ保チ、眞
ノ勢力ガ出來ルモノデアリマス(拍手)「我
等ト雖モ國ヲ思ヒ、翼賛精神ヲ持スルコトニ
於テ決シテ人後ニ落ちルモノデハアリマセヌ、
現ニ實踐躬行シテ微力ヲ盡シテ居リマス、又
是等翼賛運動ニ對シ或ル程度ノ中核體ノ必
要ナコトモ認メルノデアリマス、併シ現在
ノヤウナ不眞面目ナ翼賛會ニ對シテハ、極
度ノ反感以外ニ何モノモアリマセヌ(拍手)

「彼等ハ自己ノ非ヲ指摘サレルト、之ヲ反省
シヨウトハセズ、反省スルコトヲ敗北ノ如
ク心得テ、國家ノ利害ヲヨソニ敢テ我ヲ徹
セントスル、其ノ爲ニ自分等ト少シデモ意
見ノ異ナル者ニ對シテハ、直チニ自由主義ナ
リ、舊體制ナリトスル獨善ヲ敢テシ、以テ相
手ヲ壓迫セントスル、是コソ實ニ國民思想
ノ上ニ恐レベキ危險ヲ齎スモノデアルト思
ハレマス、我等ハ翼賛會ニ八百萬圓モノ巨
額ヲ支出スル餘裕ガ國費ニアルナラバ、寧
ロ刻下最緊要事トサレテ居ル生産擴充、軍
艦建造、飛行機製造等ニ其ノ餘裕ヲ振向ケ
ルコトガ、最モ必要ナルコトデハナカラウ
カト存ジマス(拍手)「ソレデコソ國民ハ現
下ノ國際情勢カラ來ル不安ニ對シ、幾分ナ
リトモ安堵シ得ルモノト思ヒマス、國ヲ思
フ餘リ敢テ亂筆粗辭ヲ願ミズ、先生ニ下意
ヲ上達シテ御賢慮ニ待タントスル次第デア
リマス、先生等ノ職權ノミガ能ク此ノ翼賛
會ヲ建直シ得、更ニ國家ノ大患ヲ除キ得ル
モノト信ズル者デアリマス(拍手)政府ハ
翼賛會ノ主張ト目的トハ萬民輔翼、臣道實
踐、職域奉公デアリ、之ニ依ツテ一億一心
ノ實ヲ擧グルニアリト述ベテ居リマス、果
シテ是ガ眞ニ翼賛會ノ主張デアリ目的デア
ルナラバ、日本國民中誰一人之ニ異議ヲ言
フ者ガゴザイマセヌ、皇運扶翼ノ念ナキ者
ハ帝國國民中一人モ存在セヌ筈デアリマス
(拍手)敢テ之ニ對シテ大ナル會ヲ組織シ、
國民間ニ會員ト會員ナラザルモノト差別
ヲ設クルコトハ、却テ萬民輔翼ノ精神ニ反
スル(拍手)又臣道實踐、職域奉公ガ其ノ目
的デアツテ、政治活動ヲナサヌモノナラバ、
之ヲ教ヘルニ明治二十三年ノ教育勅語ヲ以
テスキデアリマス(拍手)是ヨリ完全ナモノ
ハゴザイマセヌ、而シテ總テノ現役軍人ヲ
モ入會セシムベキデアリマス、軍人ハ臣道
實踐、職域奉公ノ師表タルベキモノト私ハ
信ジテ居リマス(拍手)然レニ政府ハ之ヲ拒否
シテ居ル、頭隠シテ尻隠サズトハ全ク此ノ
コトデゴザイマセウ、臣道實踐、職域奉公
ハ翼賛會ノ表看板デ、其ノ組織者ノ内心ハ

之ヲ大々的政治活動ノ機關トシ、一國一黨ヲ夢見テ居ルモノト言ハザルヲ得ナイト思フノデアル(拍手)一億一心ノ實ヲ舉ゲルニ付テハ、先ヅ黨會自身ノ内部ヲ顧ミルベキデアリマスガ、彼等ハ銘々勝手ニ私見ヲ發表シ、何等ノ一致セル主義主張ヲ有シテ居ラス、彼等ノ或ル者ハ動モスレバ奇矯ナル革新論ヲ、社會主義又ハ共產主義の唯物論ヲ唱ヘテ國家ヲ惑ハシテ居ル、洵ニ恐ルベキ現象デアリマス(拍手)一億一心ハ日本國民本然ノ姿デアアル、敢テ一國一黨式結社ヲ組織シ、之ヲ求メントスルガ如キハ、日本國民ヲ誤ルノ甚ダシキモノデアアル(拍手)政府ガ其ノ國策ノ向フ所ヲ國民ニ徹底セシメ、國民ヲ納得セシムレバ、日本國民ハ水火モ辭セザル國民デアリマス、建國以來我が國民ハ外患ニ備フル國家ノ非常時ニ對シ、未ダ曾テ一絲亂レタル行動ヲシタル實例ハアリマセス、日清、日露、日獨戰役當時ノ事實ニ徴シテモ、之ヲ立證シテ餘リアルモノガアル、支那事變勃發以來、國民ハ常ニ一億一心、全面的ニ政府ヲ支持シテ參リシタ、此ノ間内閣ハ却テ數回更迭シテ居ル、近衛、廣田、平沼、阿部、米内、第二次近衛内閣等、其ノ更迭頻々トシテ居ル、其ノ更迭ノ理由サヘ判明セヌニ拘ラズ、國民ハ時局ヲ認識シ、常ニ一億一心ノ實ヲ舉ゲテ居ル、政黨ト雖モ國家ノ重大政策ニ協力セザリシ實例ハアリマセス、時ニ政府ノ政策ニ不安ノ念ヲ抱キツツモ、四圍ノ狀況ニ鑑ミ、一切ノ政爭ヲ自戒シテ來タノデアリマス、我が國ニ於ケル眞ノ一億一心、舉國一致ハ國民ノ間ニ生ズル自然ノ發露ニ俟ツベキモノ、抑制ニ依ツテ招來スベキモノデハナイ、國策ガ國民間ニ徹底シ、政府ノ向フ所ガ國民ニ判明スレバ、期セズシテ一億一心ハ實現サレル、非常時ニ言論ノ制限ハ之ヲ諒トスル、併シ國民ノ常識上信シ能ハザルガ如キモノヲ示シテ、専ラ宣傳戰術ニ依ツテ國民ヲ群羊ノ如ク左右セントスルコトハ、決シテ策ヲ得タルモノデハアリマセス(拍手)

手)憲法ニ依ツテ保障サレタ議會ノ論壇ニ於テサヘ、八方手ヲ盡シテ議員ノ言論ヲ抑壓スル方途ガ、白晝公然橫行シテ居ルト言ハレル、今日ノ日本デ言論ノ自由ヲ認メラレテ居ルノハ、黨會ノ役員ノミダト言ハレテ居リマス……

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス——

○植原悦二郎君(續) 批判ナキ所ニ公明ナル政治ハアリマセヌ、批判ト反省ナキ所ニ國民ノ健全ナル發達ヲ望ムコトハ出來ナイデアリマス(拍手)立憲政治ノ圓滑ナル運用ハ、健全ナル政黨ニ依ル外途ハゴザイマセス、政府モ愈々黨會ノ行キ過ギト其ノ缺陷ヲ了解シ、其ノ政治的行爲ヲ抑制シ、人事ノ一新、機構ノ改造ヲ斷行スルコトヲ公約シ、其ノ結果追加豫算ヲ改訂シテ、實行豫算ヲ編成スルコトヲ聲明サレテ居リマス、是ニ出ツテ之ヲ觀テモ、過去及現在ニ於ケル黨會ノ組織ハ勿論、其ノ行動ニ付テモ正當ナラザルコトハ明カデアリマス(拍手)而シテ之ニ向ツテ政府ガ此ノ時局柄ヲモ顧ミズ、九十三萬圓ノ豫備金支出ヲ敢テセルコトハ、何ト云フテモ不當デアルト斷言シナケレバナラナイデアリマス(拍手)政府ハ此ノ九十三萬圓ノ使途ニ付テモ一々明細ニ議會ニ其ノ數字ヲ示スコトヲ避ケテ居ラレマス(拍手)斯様ナ事實ニ徴シマシテ、私共ハ何トシテモ此ノ九十三萬圓ノ第二豫備金支出ニ對シテ承認ヲ與ヘルコトハ出來ナイデアリマス、若シ之ヲナスヤウナコトガアレバ、黨會ノ過去及現在ニ於ケル行動ヲ是認シタコトニモナルデアリマス、又之ヲ承認スレバ——此處ニ於テ委員長ハ色々實例ヲ舉ゲラレマシタ、例ヘバ輸出入獎勵金ダトカ、或ハ食糧ノ増産計畫ニ支出シタモノハ第二豫備金ノ支出ニ依ルトカ、實例ヲ舉ゲテ申サレマシタガ、ソレト是トハ全く根本的ニ其ノ性質ヲ異ニスルモノガアリマス(拍手)私共ハ斯様

ナ惡例ガ議會政治ノ上ニ殘ルコトヲ斷ジテ許サヌ者デアリマス(拍手)是ガ議會ニ對スル吾々ノ驕權ヲ全ウスル所以ナリト確信シテ疑ハザル者デアリマス

尙ホ本日ノ議員俱樂部ノ總會ニ於テモ自由ノ討論、自由ノ決定ヲ許サレテ居リマスガ故ニ、ドウカ皆様方ノ同意ニ依ツテ、此ノ非常時局ニ於テ吾々ハ國體ヲ明徴シ、憲政政治ヲ擁護シ、赤化宣傳運動ヲ防止シ、我が國ノ健全ナル發達ヲ期スルコト共ニ、政府ヲシテ再ビ斯カル行動ニ出デシメザルヤウニ、滿場ノ諸君ノ御賛成ヲ切望シテ已マザル者デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 先ヅ昭和十五年度第二豫備金支出ノ件ニ對スル植原君提出ノ動議ニ付キ採決致シマス、此ノ採決ニ對シテハ武知勇記君外五十三名ヨリ、記名投票ヲ以テスベシトノ要求ガアリマス、又植原悦二郎君外四十名ヨリ、無名投票ヲ以テスベシトノ要求ガアリマス、仍テ記名投票ヲ以テ採決スルヤ、又無名投票ヲ以テ採決スルヤヲ決定シナケレバナリマセス、其ノ何レニスルヤノ採決ハ記名投票ヲ以テ致シマス、是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、記名投票ヲ以テ決スルニ贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票ヲ持參セラレンコトヲ望ミマラス——閉鎖——議席第一番ヨリ順次投票セラレンコトヲ望ミマス

(各員投票)

○議長(小山松壽君) 投票漏ハアリマセスカ——投票漏ナシト認メマス——投票閉鎖——開票——開鎖

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(小山松壽君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス

(大木書記官長朗讀)

投票總數二百四十六

可トスル者 白票 百九十九

否トスル者 青票 四十七

(拍手起ル)

記名投票ヲ以テ決スルヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ

青木 作雄君	青木 精一君
青山 憲三君	淺沼稻次郎君
赤松 克麿君	秋田 清君
綾部健太郎君	井阪 豐光君
井上 良次君	井上 知治君
池本甚四郎君	石坂 繁君
板野 友造君	伊豆 富人君
伊藤東一郎君	伊藤 五郎君
一ノ瀬俊民君	稻田 直道君
今井 健彦君	今成留之助君
伊禮 肇君	宇賀 四郎君
内ヶ崎作三郎君	内田 信也君
上田 孝吉君	馬岡 次郎君
江原 三郎君	小川郷太郎君
小笠原八十美君	小笠原三九郎君
小高長三郎君	小野 寅吉君
小野 康君	大口 喜六君
大内竹之助君	大島 寅吉君
大野 一造君	岡田 忠彦君
岡野 龍一君	沖島 謙三君
加藤 知正君	加藤 謙五郎君
加藤 鯛一君	加藤 謙造君
河合 義一君	河上 丈太郎君
河上 哲太郎君	川崎巳之太郎君
川島正次郎君	川崎 隆君
川崎末五郎君	川俣 清吉君
勝 正憲君	勝田 永吉君
金光 庸夫君	金井 正夫君
風見 章君	菊地養之輔君
菊池 良一君	岸田 正記君
北原阿智之助君	北村 文衛君
木原 七郎君	木村 正義君
木村作次郎君	工藤十三雄君
窪井 義道君	熊谷五右衛門君
熊谷 直太君	藏原 敏捷君
倉元 要一君	小泉又次郎君
小泉 純也君	小池 四郎君
小谷 節夫君	小林 絹治君
小平 重吉君	小柳 牧衛君

小見山七十五郎君	駒井 重次君
木暮武太夫君	齋藤 直橋君
佐藤謙之輔君	佐藤洋之助君
坂田 道男君	坂本宗太郎君
澤田 利吉君	志賀和多利君
篠原 義政君	島田 俊雄君
清水徳太郎君	庄司 一郎君
末松借一郎君	杉山元治郎君
砂田 重政君	曾木 重貴君
高橋圓三郎君	高橋熊次郎君
高橋 義次君	高橋 守平君
高岡 紘平君	高岡 大輔君
田中 万逸君	田中 源君
田村 秀吉君	田子 一民君
田原 春次君	田邊 七六君
田代 正治君	武知 勇記君
立川 平君	王野 知義君
陣 軍吉君	津雲 國利君
津倉 龜作君	津崎 尙武君
津原 武君	土倉 宗明君
塚本 重藏君	塚本 三君
手代木隆吉君	寺田 市正君
東郷 實君	道家齊一郎君
豐田 牧君	中井 一夫君
富吉 榮二君	中島彌園次君
中井川 浩君	中村三之丞君
中村 高一君	仲西 三良君
中田 儀直君	永井柳太郎君
仲井間宗一君	長野 高一君
永山 忠則君	長野 廣君
長野 綱良君	西尾 末廣君
南雲 正朔君	野口 喜一君
西岡竹次郎君	服部 崎市君
野田 俊作君	服部 英明君
原 玉重君	馬場 元治君
羽田武嗣郎君	春名 成章君
濱地 文平君	匹田 銳吉君
樋口善右衛門君	廣川 弘福君
肥田 孫司君	古田喜三太君
福井 甚三君	松井 郡治君
星 一君	

松尾 三藏君	松浦周太郎君
松村 謙三君	前田房之助君
前田 米藏君	眞鍋 儀十君
牧野 賤男君	増永 元也君
前川 正一君	三浦 虎雄君
三宅 正一君	三好 英之君
宮澤 胤勇君	宮崎 一君
水谷長三郎君	村上 元吉君
村瀬 武男君	紫安新九郎君
森田 繁君	森下 國雄君
森田 福市君	最上 政三君
山田 順策君	山本 厚三君
山本 条吉君	山本 芳治君
山元龜次郎君	山崎達之輔君
山道 襄一君	八角 三郎君
八並 武治君	吉植 庄亮君
吉川吉郎兵衛君	橫川 重次君
米窪 滿亮君	依光 好秋君
渡邊玉三郎君	渡邊 泰邦君
渡邊 健君	
否トスル議員ノ氏名左ノ如シ	
芦田 均君	池田 清秋君
石坂 豐一君	板谷 順助君
一宮房治郎君	猪野毛利榮君
植原悦二郎君	江藤源九郎君
大石 倫治君	大野 伴陸君
川崎 克君	漢那 憲和君
北浦圭太郎君	小山 谷藏君
木檜三四郎君	椎尾 辨臣君
鈴木憲太郎君	鈴木 文治君
世耕 弘一君	高橋壽太郎君
田中 亮一君	田川大吉郎君
土屋清三郎君	中野 寅吉君
中野 邦一君	名川 侃市君
服部 英明君	林 讓治君
林 平馬君	鳩山 一郎君
原口初太郎君	坂東幸太郎君
平野 力三君	一松 定吉君
福田 次郎君	古島 義英君
本田彌市郎君	星島 二郎君
堀内 良平君	松尾 孝之君

眞鍋 勝君	丸山辨三郎君
宮脇 長吉君	森 幸太郎君
栗山 博君	百瀬 渡君
若宮 貞夫君	
○議長(小山松壽君) 右ノ結果記名投票ヲ以テ採決スルコトニ決シマシタ	
(拍手起ル)	
○議長(小山松壽君) 是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、植原君提出ノ動議ニ賛成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票ヲ持參セラレンコトヲ望ミマス——閉鎖——議席第一番ヨリ順次投票セラレンコトヲ望ミマス	
(各員投票)	
○議長(小山松壽君) 投票漏ハアリマセスカ——投票漏ナシト認メマス——投票閉鎖——開座——開議	
(書記官投票ノ數ヲ計算ス)	
○議長(小山松壽君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス	
(大本書記官朗讀)	
投票總數二百四十六	五十
可トスル者 白票	五十四
否トスル者 青票	百九十二
(拍手起ル)	
植原悦二郎君提出ノ動議ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ	
芦田 均君	池田 清秋君
石坂 豐一君	板谷 順助君
一宮房治郎君	猪野毛利榮君
今成留之助君	植原悦二郎君
江藤源九郎君	大石 倫治君
大野 伴陸君	川崎 克君
漢那 憲和君	北浦圭太郎君
北原阿智之助君	小柳 牧衛君
小山 谷藏君	木檜三四郎君
佐藤謙之輔君	椎尾 辨臣君
鈴木憲太郎君	鈴木 文治君
世耕 弘一君	高橋壽太郎君
高岡 大輔君	田中 亮一君
田中 耕君	田川大吉郎君
土屋清三郎君	中野 寅吉君

中野 邦一君	名川 侃市君
服部 英明君	林 讓治君
林 平馬君	鳩山 一郎君
原口初太郎君	坂東幸太郎君
平野 力三君	一松 定吉君
福田 次郎君	古島 義英君
本田彌市郎君	星島 二郎君
堀内 良平君	松尾 孝之君
眞鍋 勝君	丸山辨三郎君
宮脇 長吉君	森 幸太郎君
栗山 博君	若宮 貞夫君
百瀬 渡君	
否トスル議員ノ氏名左ノ如シ	
青木 作雄君	青木 精一君
青山 憲三君	淺沼稻次郎君
赤松 克廣君	秋田 清君
(綾部健太郎君	井阪 豐光君
井上 良次君	井上 知治君
池本甚四郎君	石坂 繁君
板野 友造君	伊豆 富人君
伊藤東一郎君	伊藤 五郎君
一ノ瀬俊民君	稲田 直道君
今井 健彦君	伊禮 肇君
宇賀 四郎君	内ヶ崎作三郎君
内田 信也君	上田 孝吉君
馬岡 次郎君	江原 三郎君
小川郷太郎君	小笠原八十美君
小笠原三九郎君	小高長三郎君
小野 寅吉君	小野 廉君
大口 喜六君	大内竹之助君
大島 寅吉君	大野 一造君
岡田 忠彦君	岡野 龍一君
沖島 録三君	加藤 知正君
加藤録五郎君	加藤 鯛一君
加藤 録造君	河合 義一君
河上丈太郎君	河上 哲太君
川崎巳之太郎君	川島正次郎君
川副 隆君	川崎末五郎君
川俣 清音君	勝 正憲君
勝田 永吉君	金光 庸夫君
金井 正夫君	風見 章君

菊地養之輔君 岸田 正記君 木原 七郎君 木村作次郎君 窪井 義道君 熊谷 直太君 倉元 要一君 小泉 純也君 小谷 節夫君 小平 重吉君 小見山七十五郎君 木暮武太夫君 坂田 道男君 澤田 利吉君 篠原 義政君 清水徳太郎君 末松偕一郎君 砂田 重政君 高橋圓三郎君 高橋 義次君 高田 耘平君 田中 源君 田子 一民君 田邊 七六君 武知 勇記君 玉野 知義君 津雲 國利君 津崎 尚武君 土倉 宗明君 塚本 三三君 寺田 市正君 東條 貞君 道家齊一郎君 中井 一夫君 中島彌團次君 中村三之丞君 仲西 三良君 永井柳太郎君 長野 高一君 長野 長廣君 南雲 正朝君

菊池 良一君 北村 文衛君 木村 正義君 工藤十三雄君 能谷五右衛門君 藏原 敏捷君 小泉又次郎君 小池 四郎君 小林 絹治君 小山 亮君 陶井 重次君 齋藤 直橋君 坂本宗太郎君 志賀和多利君 島田 俊雄君 庄司 一郎君 杉山元治郎君 曾木 重貴君 高橋熊次郎君 高橋 守平君 田中 万逸君 田村 秀吉君 田原 春次君 田代 正治君 立川 平君 陣 軍吉君 津倉 龜作君 津原 武君 塚本 重藏君 手代木隆吉君 東郷 實君 豐田 收君 富吉 榮二君 中井川 浩君 中村 高一君 中川 儀直君 仲井開宗一君 永山 忠則君 長野 綱良君 南雲 正朝君

西尾 末廣君 野口 喜一君 服部 崎市君 長谷 長次君 馬場 元治君 奉名 成章君 匹田 純吉君 廣川 弘禪君 古田喜三太君 松井 郡治君 松浦周太郎君 前田房之助君 眞鍋 儀十君 増永 元也君 三浦 虎雄君 三好 英之君 宮崎 一君 村上 元吉君 紫安新九郎君 森下 國雄君 山田 順策君 山本 芳治君 山崎達之輔君 八角 三郎君 吉植 庄亮君 橫川 重次君 依光 好秋君 渡邊 泰邦君 渡邊 健君

西岡竹次郎君 野田 俊作君 原 玉重君 羽田武嗣郎君 濱地 文平君 樋口善右衛門君 肥田 琢司君 福井 甚三君 星 一君 松尾 三藏君 前田 謙三君 牧野 賤男君 前川 正一君 三宅 正一君 宮澤 胤勇君 水谷長三郎君 村瀬 武男君 森 肇君 最上 政三君 山本 厚三君 山元龜次郎君 山道 襄一君 八並 武治君 吉川吉郎兵衛君 米窪 滿亮君 渡邊玉三郎君 渡邊 健君

○議長(小山松壽君) 起立多數、仍テ此ノ部分ハ承諾ヲ與フルニ決シマシタ(拍手)
次ニ其ノ他ノ昭和十五年度第二豫備金支出ノ件ハ、承諾ヲ與フルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 起立多數、仍テ此ノ部分ハ承諾ヲ與フルニ決シマシタ(拍手)
次ニ其ノ他ノ昭和十五年度第二豫備金支出ノ件ハ、承諾ヲ與フルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ承諾ヲ與フルニ決シマシタ
次ニ昭和十四年度第一豫備金支出ノ件外四件ニ於テ採決致シマス、五件ハ承諾ヲ與フルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ五件トモ承諾ヲ與フルニ決シマシタ(拍手)

○服部崎市君 此ノ際暫時休憩セラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス
午後五時二十八分休憩
午後七時十二分開議

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕
一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
生田和平君外一名提出ハ八紘一字ニ關スル再質問ニ對スル答辯書
稻田直道君提出肥料國營並値下斷行ニ關スル質問ニ對スル答辯書
羽田武嗣郎君提出圖書手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問ニ對スル答辯書
岡田忠彦君外一名提出中等教科書統制ニ關スル質問ニ對スル答辯書
寺田市正君提出全國神社職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關スル質問ニ對スル答辯書
塚本重藏君提出木造建物防火改修事業促進ニ關スル質問ニ對スル答辯書
(以上二月二十七日受領)

八紘一字ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月二十二日
提出者 生田 和平
外一名

八紘一字ニ關スル再質問主意書
昭和十六年二月十三日本員等ノ提出セル首題ノ質問主意書ニ對シ去ル十八日政府ヨリ答辯書ヲ受領シタルガ該答辯書中尙本員等ヲ納得セシメザル點アリ茲ニ重ネテ下記事項ニ付答辯ヲ求ム

一「親和のナル一體ヲラシメン」トノ意義如何
近衛內閣總理大臣ハ八紘一字ノ意義ヲ親和のナル一體デアルト解セラレテ居ルヤウデアルガ如何ニモ低調デアルノミデナク、四海同一家或ハ世界協同體ト相似タル意味ヲ持ツヤウナ感ヲ起サスモノデアラル。此ノ熟語ハ當時ノ平沼首相ノ總親和ナル言葉ヨリ出タル用語カトモ思ハレルノデアアルガ、神意ヲ解釋スル言葉トシテハ妥當ヲ缺クモノデアアルマイカ。抑、我が堅國ノ大精神ハモットモツト崇高ニシテ至大ナルモノデアツテ、太陽ノ光ノ如ク森羅萬象皆悉ク其ノ惠ニ浴セシムベキ廣大無邊ナル御威力デアルト信ズルノデアアル。

〔答辯書授國之德、弘皇孫養正之心〕ト仰セラレタル御神意ヲ承タルモノデアツテ、皇祖天照大神ノ威徳光明ガ天下ニ光被セラレ、聽テハ世界ガ神威ニ靡キマツルモノデアアル、トノ意ニ解スベキモノデアナイカト思フノデアアル。「宇」ハ堂宇又ハ宇山ヨリ出ヅ、堂宇ハ神ノ家デアリ神ノ國デアル。

二「其ノ特性ヲ發揮シツツ」トノ意義如何
橋田文相ノ言葉ヲ藉リテ言ヘバ、各國ガ夫々ニ本然ノ姿ヲ發揮スルト云フノデアアル或ハ又如何ナル特性ヲ發揮セシムルト云フノデアアルカ其ノ意義甚ダ不明瞭デアル。

三「八紘一字ハ「掩八紘而爲宇」トノ大御心ト同様ノ意義ナリ」ト答ヘラ

レテ居ラルガ、之ハ大ナル錯誤ニ陷
ツテ居ルノデハナイカ、近衛内閣總理
大臣ハ八絃一字ノ成語ニ對シ何處ニ其
ノ根據ヲ置イテ居ラルノデアルカ、
八絃一字ト「掩八絃而爲字」トハ文字ノ
違フ如ク決シテ同一意義デハアリ得ナ
イ、「八絃」ト「掩八絃」トハ同一意義ニ
非ラザルガ如ク、「一字」ト「爲字」トハ
決シテ同一意義ナリト解スルコトハ出
來ヌ、又八絃一字ハ「掩八絃而爲字」ノ
略語デアリトスルナラバ、之ハ牽強附
會ノ言ト謂ハネバナラス、何トナレバ
假ニ八絃ノ「絃」ヲ採リ爲字ノ「字」ヲ採
リ、單ニ「絃」トセバ或ハ略語トナリ
得ルカモ知レヌガ原語ニ基キ餘計ナリ
ト爲スコトハ出來ヌ

更ニ、八絃一字ヲ八絃ハ一字ナリト讀
ミ下シテモ誤デハナイノデアル、將來
「八絃ハ一字ナリ」ト讀ム場合アリトス
ルナラバ、神武天皇、肇國ノ大神神デア
ル「掩八絃而爲字」トハ茲ニ大ナル間違
ガ起ツテクルハ當然デアツテ、皇國ノ
大事蓋シ之ヨリ大ナルハナイ、元來「八
絃」ナル熟語ハ昔テ田中智學氏ノ
作ラレタル成言又ハ成句デアルト申サ
レテ居ルノデアルガ、遽ニ承服スルコ
トハ出來ナイノデアル

昭和十六年二月二十七日
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長小山松壽殿
衆議院議員生田和平君外一名提出八絃一
字ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進
候
〔別紙〕
衆議院議員生田和平君外一名提出八絃
一字ニ關スル再質問ニ對スル答辯書
一、「親和的ナル一體ヲラシメン」トノ意

義ハ皇祖天照大神ノ御德ノ光被ニヨリ
天ノ下ヲ總テ一家ノ如ク親和的ナル一
體ヲラシメントノ意義ナリ
二、「其ノ特性ヲ發揮シツツ」トハ各國ヲ
シテ夫々其ノ國土・民族等本來ノ特色
ヲ保有發展セシメツツ相傍リ相扶ケテ
生成發展シテヤマザルコトヲ意味ス
三、「謹ンデ按ズルニ歷代天皇ハ皇祖ノ
大御心ヲ繼承恢弘シ給セ 神武天皇ハ
乾靈授國之德ニ答ヘ皇孫養正之心ヲ弘
メサセラレテ都ヲ開キ天下御統治ノ御
精神ヲ述ベサセラレ「掩八絃而爲字」ト
仰セラレタリ此ノ御精神ハ皇祖皇宗ノ
御遺訓ニシテ歷代天皇ノ御繼承アラセ
ラレタル處ニシテ八絃一字ハ「掩八絃
而爲字」トノ大御心ト同様ノ意義ナリ
ト思料ス

右及答辯候也
昭和十六年二月二十七日
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
文部大臣 橋田 邦彦
肥料國營並値下斷行ニ關スル質問主意
書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月二十二日
提出者 稻田 直道
肥料國營並値下斷行ニ關スル質問
主意書
世界ノ變局ニ直關シ八絃一字ノ大業ヲ達成
スル上ニ今後ニ於ケル我カ國ノ食糧問題ノ
最重要性ハ今更論スルニ由ナク而モ食糧問
題ニ遺憾ナキヲ期スルカ爲ニハ肥料ノ重
要性ヲ忘ルルヘカラス即チヨリ良キ肥料
ヲ豐富低廉ニ農家ニ供給シ生産費ヲ出來
得ル限リ低下シテヨリ良キ農産物ヲ多量
ニ増産セシメ以テ其ノ收入ノ増加ヲ圖ル
コトハ我カ國農家ノ舉ゲテ願望スル所ナ
リ然ルニ今日ノ如ク肥料ノ生産配給ヲ營
利業者其ノ他ニ委セ置キ政府ハ唯之ヲ監
督シ居ル程度ノコトヲ以テシテハ斷シテ
肥料ノ豐富低廉ハ期セラレサルノミナラ

ス却テ彌カ上ニモ益、其ノ供給ヲ困難ナラ
シムルモノアルコトヲ確信スルモノナリ
惟フニ今日米ヲ初トシテ農産物ノ生産費
漸次上騰シ其ノ公定價格カ他ノ諸物資ノ公
定價格ニ比シ大ニ割安不均衡ナルカ爲農
家ハ非常ニ其ノ生活ニ不安ヲ感シ舉ツテ
之カ救済ヲ政府ニ要望シツツアルモ政府
ハ低物價政策堅持上米價ノ値上ヲ躊躇シ
居ラル折柄之カ唯一無二ノ良打開策ハ
米價ノ値上若ハ米作ニ對スル補助金ノ交
付ニ代フルニ之カ値上又ハ補助金ニ相當
スル金額ノ全額若ハ一部ヲ國庫ノ損失ト
シテ充當シ之ヲ以テ肥料ノ價格ヲ大幅ニ
値下スル目的ノ爲ニ此ノ際總テノ行掛リ
ト支障トヲ一掃シ肥料ノ生産配給ヲ斷然
國營ト爲シ仍テ優良低廉ナル肥料ヲ適期
豐富ニ農家ニ供給シハ以テ米價値上ノ
問題ヲ解決シ他ハ以テ農家多年ノ重大問
題トシテ肥料問題ノ根本的解決ヲ圖ルコト
ハ洵ニ是レ大國策遂行途上ニ於ケル刻下
銃後施設ノ最重要問題タルヲ確信スルモ
ナリ目下食糧増産對策樹立ノ急務ヲ叫
ハル折柄其ノ一案トシテ希クハ政府ニ
於テ斷乎トシテ之カ方策ヲ實現ヲ期セラ
レムコトヲ望ム右質問主意書左ノ如シ

一 政府ハ右ノ趣旨ニ賛成ナリヤ否ヤ
二 政府ハ右ノ趣旨トハ別箇ニ今後肥料
ノ專賣制若ハ之ニ代ルヘキ制度ヲ實行
シ本案ノ趣旨ニ副フヤウ肥料ノ大幅値
下ヲ斷行スル意思ナキヤ
三 政府若右ノ第二ニ掲ケタル制度ヲ實
行スル考アリトセハ何時頃ヨリ之ヲ行
フ方針ナリヤ
右及質問候也
昭和十六年二月二十七日
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長小山松壽殿
衆議院議員稻田直道君提出肥料國營並値
下斷行ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差
進候

〔別紙〕
衆議院議員稻田直道君提出肥料國營並
値下斷行ニ關スル質問ニ對スル答辯書
肥料ノ豐富且低廉ナル供給ニ關シテハ官
民全力ヲ舉ゲ之ガ實現ニ努力シツツハ官
即チ物資動員計畫上ニ於テモ軍需ト同等
或ハ夫レ以上ノ重要性アルモノトシテ之
ガ生産資材ノ配給、肥料及肥料原料ノ輸
入ニ付努力シ又肥料生産者側ニ於テモ現
下食糧確保ノ重要性ヲ認識シ一應タリト
モ肥料増産ヲ圖ラント努力シツツアリ特
ニ肥料價格ニ付テハ硫酸ニ付テハ昭和十
三年ヨリ、石灰窒素、過燐酸石灰ニ付テ
ハ昭和十四年ヨリ之ガ据置方針ヲ堅持シ
來レルガ電力石炭、其他肥料生産資材ノ
價格昂騰ニ依リ生産費ノ増高又ハ肥料輸
入價格昂騰ニ依リ肥料價格据置ノ儘ニテ
ハ肥料ノ供給確保困難トナリタルヲ以テ
昭和十五年ヨリハ右各肥料及硝石、加里
鹽等ニ付テモ値上ヲ必要トスル金額ヲ目
安トシテ年額數千萬圓ノ助成金ヲ交付ス
ルコトトシ以テ肥料價格ノ低廉ト肥料供
給ノ確保ニ努メ來レリ現下ニ於ケル肥料
ノ供給ノ確保ノ問題ハ國內生産ニ付テハ
石炭、電力、鋼材等生産資材及勞力ノ供
給如何ニ係リ、又加里又ハ燐礦ノ如ク輸
入ヲ要スル肥料又ハ肥料原料モ多額ニ上
リ、今直チニ肥料ノ生産ヲ國營又ハ專賣
トスルモ肥料ノ供給數量ノ増加ヲ圖ルコ
ト極メテ容易ナラズト思料セラルト共
ニ現下ノ肥料配給ニ付テハ肥料配給割當
制度ヲ實行シ肥料配給機構ヲ整備シ配給
業者ノ各段階ノ手續制ヲ行ヒ來レリ殊ニ
財政上ノ見地ヨリスルモ肥料ノ國營又ハ
專賣ヲ行フ爲ニハ現在ノ肥料營業者ニ對
シ相當多額ノ賠償金等ヲ考慮スル必要ア
ルヲ以テ肥料ノ國營又ハ專賣制度ノ實施
ハ慎重考究ヲ要スルモノト認メラル
右及答辯候也
昭和十六年二月二十日
農林大臣 石黑 忠篤

圖畫手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十六年二月二十二日

提出者 羽田武嗣郎

圖畫手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問主意書

昭和十六年度ヨリ國民教育ノ根本理念刷新ニ立脚シタ國民學校ノ制度ガ實施セラレノハ眞ニ意義深キコトト衷心贊意ヲ表シ其ノ實現ニ最大ノ協力ヲ惜シマナイモノデアル。而シテ之ガ實現ニ直接ノ關聯ヲ持ツモノハ其ノ指導ノ任ニ當ルベキ教員ノ養成問題デアル。

國民學校初等科ノ四科、高等科五科ノ教科中、藝能科圖畫及工作ヲ初中等學校ノ圖畫手工工作教育ノ源流ヲナスベキ教員ノ養成ニ關シ、現在果シテ適切ナル方策ガ講ゼラレテキルカ否カハ甚ダ疑問トスル所デアル。

圖畫手工工作ニ關スル官立ノ教員養成機關ニ、東京美術學校圖畫師範科ト東京高等師範學校圖畫手工專修科ノアルコトハ茲ニ記スマデモナイ。然ルニ圖畫手工專修科ノ學科目表ヲ見ルニ、該教育ノ最主體トナルベキ「圖畫實習」ハ、西洋畫ノミニ偏シ、我が國傳統ノ美術デアル日本畫ニ就テハ何等授クルトコロガナイ。之ハ藝能科圖畫ノ「我が國民ノ傳統的技法ヲ尊重スル」ノ本旨ト相反スルモノデ、教育上定ニ由タシキ問題ト謂ハナケレバナラナイ。

更ニ手工教育ノ實情ヲ見ルニ徒ニ手先ノ技巧ニ踞ルシ、物品製作ノ末梢的細工ニ墮シ、精神の訓練ヲ怠リ、情緒ノ醇化乃至工夫創造ノ力ヲ育成スルコトヲ蔑ニシテキル、惟フニ圖畫師範科ハ該校ノ性質上繪畫圖案ニ關スル技術モ鑑識モ共ニ見ルベキモノガアルガ、其ノ半面教育者ト

シテノ修養ニ缺クル所ガ多イ。即チ指導者タル教師モ生徒モ將來美術家ニ爲ラウトスルガ如キ慾求旺ニシテ、教育者タルコトヲ潔シトシナイ傾向ガ多イ。斯クテハ同校ニ特ニ該科ヲ設置セル本旨ニ悖ルモノト謂ハナケレバナラナイ。

尚、東京高等師範學校圖畫手工專修科ハ昭和十六年度ヨリ一箇年ヲ延長シテ四箇年制ニ改ムルヤウデアルガ、四箇年ニシテモ未ダ十分トスルモノデナイガ、併シ此ノ學ニ出デラレタコトハ時宜ニ適シタモノト云フテ差支ナイ。

然ルニ同ジク圖畫工作ノ教育養成ヲ目的トスル東京美術學校ノ圖畫師範科ハ、現行ノ三箇年制ヲ何等延長スルコトナキ由デアル。斯ノ如ク同一使命ニ基ク官立ノ二ツノ教員養成機關ニ差異ヲ設ケルノハ如何ナル理由ニ據ルモノカ甚ダ解釋ニ苦シム所デアル。

以上ヲ要約スルニ

- 一 東京高等師範學校圖畫手工專修科ガ專ラ西洋畫ノミヲ授ケテ日本畫ヲ全然缺如セルコト
 - 二 同科ノ手工ガ徒ニ細工ニ墮シ根本的精神訓練ヲ缺キ情操ノ醇化ト工夫創作力ノ育成トニ不十分ナルコト
 - 三 東京美術學校圖畫師範科ハ專門美術家養成ト何等選ブトコロナキコト
 - 四 兩校共ニ師道精神ノ涵養ニ關シ甚ダ遺憾ノ點多キコト
 - 五 圖畫手工專修科ヲ昭和十六年度ヨリ四箇年ニ延長スルニモ拘ラズ圖畫師範科ヲ三箇年ノ現制度ニ放任シ置クコト右ノ諸點ニ關シ政府ノ明快ナル答辯ヲ希求シテ已マナイ。
- 尚、圖畫手工工作ノ教員養成機關ニ於ケル教科内容ヲ左表ノ如ク改メ教育ノ目的ヲ達成スルコトニ對シ政府ノ所見ヲ明ニサレタイ

圖畫工作學科過程

學科目	內 容 一 般	每週教授時數			
		一年	二年	三年	四年
皇 民 科	徳性ヲ涵養シ、皇國ノ使命ヲ自覺セシムルコト	一	一	一	一
教 育 科	教育ノ理念ヲ確立シ、教育者タルノ信念ヲ養フコト	二	二	〇	〇
造形教育科	團畫工作ニ關スル教育理論ト其ノ指導法ヲ會得セシムルコト	〇	〇	二	三
造形理數科	造形ノ基礎タル理數ノ一般ヲ知ラシメ、合理創造ノ精神ヲ涵養スルコト	二	二	二	〇
造形文化史	造形文化ノ歴史ヲ知ラシメ、新文化ノ進展ニ寄與セシムルコト	二	二	二	二
色彩學及形態學	色彩及形態ニ關スル知識ヲ授ケ、造形ノ基礎ヲ培フコト	色彩一	同一	形態一	同一
鑑 識 學	授ケ、之ガ批判鑑賞ノ能力ヲ養フコト	〇	〇	一	一
材 料 學	造形ニ關スル材料ノ一般ノ知識ヲ授ケ、造形ノ基礎ヲ培フコト	〇	〇	二	一
體 鍊 科	心身ヲ鍊磨シ、獻身奉公ノ實踐力ヲ培フコト	三	三	三	二
繪 畫 科	描畫ニ依ル表現能力ヲ育成スルコト	八	八	一〇	一〇
圖 案 科	圖案ニ關スル知識ヲ授ケ、計畫設計ノ能力ヲ育成スルコト	二	二	〇	〇
彫 塑 科	彫塑ニ依ル立體表現ノ能力ヲ育成スルコト	三	三	三	三
一 般 工 作 科	衣食住ニ關スル物品ノ製作能力ヲ育成スルコト	八	八	四	〇
機械航空工作	機械航空ニ關スル製作操作ノ能力ヲ育成スルコト	〇	〇	三	一〇
圖 學 製 圖 科	圖學ノ一般ヲ知ラシメ、製圖ノ能力ヲ育成スルコト	二	二	〇	〇
合 計		三四	三四	三四	三四

右及質問候也

昭和十六年二月二十七日

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議長 小山松壽殿

衆議院議員 羽田武嗣郎君提出圖畫手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問ニ對シ

別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 羽田武嗣郎君提出圖畫手工工作科教員ノ養成機關ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、東京高等師範學校ノ圖畫手工專修科ニ於ケル圖畫教育ハ從來西洋風ノ繪畫ニ偏セズ東洋特ニ所謂日本畫ノ精神ヲ全教育ニ取入レ更ニ最高學年ニ於テ傳統的日本畫技法ニ依ル教育ヲ施シツツアリ、手工科ニ於テモ亦時勢ノ推移ニ伴ヒ内容ニ改善ヲ加ヘ來レリ

二、東京高等師範學校ノ圖畫手工專修科

ニ於テハ現在創作的藝術の教養ヲ深ムルト共ニ工業的科學の修練ヲ積マシムルヲ念トシツツアルモ明年度ヨリ之ヲ圖書科工作科トシテ本科ニ昇格セシメ毎年度募集、四年制度ニ改組スルコトトナリタルヲ以テ之ヲ機トシ圖書科及工作科ノ内容ヲ改善充實シ以テ現代日本ノ要求ニ即應セシムル様配意セントス

三、東京美術學校ニハ本科及圖書師範科アリテ美術家及教員ノ兩者ヲ養成シツツアリ而シテ圖書師範科ニ於テハ年來優良ナル中等教員ノ養成ニ努力シツツアルモ美術家ノ色彩ヲ帶ブル者絶無ニ非ザル憾モアルニ因リ此ノ點ニ付テハ今後十分留意スベシ

四、文部省ハ凡テノ學校ノ教職員ニ對シ其ノ師道昂揚ニ付テハ努力ヲ致シツツアルモ本件ニ關シテハ今後一層留意ノ上萬全ヲ期スル様致スベシ

五、東京美術學校ノ圖書師範科ニ付テハ近キ將來ニ於テ其ノ修業年限ヲ四ヶ年ニ延長スベク目下考中ナリ尙圖書手工工作ノ教員養成機關ノ教科改善案ニ關シテハ今後十分ニ考究スベシ右及答辯候也

昭和十六年二月二十七日

文部大臣 橋田 邦彦

中等教科書統制ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

落 選

著 者	書 名	採用校數
中學校用修身		
田 中 寬 一	中學國華修身書	五五
友 枝 高 彦	中學修身書	三六
實業學校用修身		
田 中 寬 一	實業國華修身書	七五

昭和十六年二月二十五日

提出者 岡田 忠彦

外一名

中等教科書統制ニ關スル質問主意書

一 經 過

文部省ハ從來刊行セラレタル中等諸學校ノ教科書ヲ統制セムトシテ突如昭和十五年七月末檢定事務ヲ停止シ先ツ同年度ニ於ケル新版、改版ノ檢定受付ヲ中止シタリ次テ從來發行セラレタル教科書中ヨリ一科目ニ付五種類ヲ選定シ十月二十二日之ヲ發表スルト共ニ府縣廳ヲ通シテ内地中等諸學校ニ採用書名並所要冊數ヲ十一月十日迄ニ文部當局及其ノ發行元ニ報告スルヤウ命シタリ

二 其ノ影響

突如トシテ行ハレタル上記ノ統制ニ因リ「イ」教育上、「ロ」資源愛護上、「ハ」營業上、「ニ」配給上多大ノ支障混亂ヲ來スニ至レリ

イ 教育上ヘノ影響

從來刊行セラレタル教科書ハ日本内地數千校ノ教員カ内容ヲ十分研討シ同僚ト互ニ相談ノ結果相當嚴正ナル批判ノ下ニ夫々採用ヲ決定シタル次第ナリ斯クテ良書ハ採用數多ク惡書ノ採用數少キハ宛モ水ノ低キニ流ルルカ如ク極メテ當然ナルコトナリ然ルニ今回文部省選定ノ結果ニ徴スルニ各學科ニ於テ極メテ不自然ナル現象ヲ見ル例ヘハ

當 選

著 者	書 名	採用校數
二 荒 芳 德	皇國修身書	五
大 島 正 德	新實業修身	一四

大 瀨 甚 太 郎 實業新修身

友 枝 高 彦 實業修身書

實業學校用國語

岩 波 編輯 國 語

佐佐木信綱 共著 新制國語讀本

武田祐吉 共著 新制國語讀本

中學校用國史

中 村 孝 也 學 昭和國史

八代國治 共著 新體日本歷史

三上參次 共著 新體日本歷史

魚 澄 惣 五 郎 新修日本史

板 澤 武 雄 新體皇國史

木 宮 泰 彦 新日本史

長 沼 賢 海 新實業日本史

西 田 直 次 郎 國史通記 實業學校用

高等女學校用數學

阿 部 八 代 太 郎 現 算術教科書

同 同 同 代數同

同 同 同 同幾何同

廣島高等師範數 女子 新制算術

學研究會 同 代數同

同 同 同 同幾何同

實業學校用英語

神田乃武 著 キングス・クラウン

三省堂編輯部補訂 リーダー

六五

四二

一三六

五二

二〇〇

一八二

一七三

六七

七三

六六

二〇二

七六

八三

五三

七八

二七

一八一

一八二

一七二

二〇七

二〇六

一七二

六三

玉 井 幸 助 興國實業讀本

龍 肅 新日本歷史

魚 澄 惣 五 郎 新修日本史

板 澤 武 雄 新體皇國史

木 宮 泰 彦 新日本史

長 沼 賢 海 新實業日本史

西 田 直 次 郎 國史通記 實業學校用

高等女學校用數學

阿 部 八 代 太 郎 現 算術教科書

同 同 同 代數同

同 同 同 同幾何同

廣島高等師範數 女子 新制算術

學研究會 同 代數同

同 同 同 同幾何同

實業學校用英語

神田乃武 著 キングス・クラウン

三省堂編輯部補訂 リーダー

四

一〇

三

三

一〇

一八

二〇

一〇

二

一五

三三

一五

一

二

一

一六

一四

二〇

一三

以上ハ僅カ數科目ニ就キテ調査シタルモノニシテ斯ル例ハ各科目ニ於テ見ラル所ナリ而モ之ガ選定ノ理由ハ永久ニ發表セスト言ヒ放チ其ノ態度ノ不明朗、獨善的、封建的ナルハ新體制下ナル丈ニ實ニ言語道斷ナリ斯クテ實際教授者ハ使ヒ慣レタル教科書ヲ奪ハレ選定書中ヨリ選フニシテモ研討期間カ

實業帝國新國文 改 版 全五冊
實業帝國國文新選 新制 版 全五冊
帝國實業讀本 改正新版 全十冊
現實業國語讀本 全十冊
興國實業讀本 全五冊

然レトモ最近女子實業教育ハ著シク發展シ其ノ數全國ニ數百ヲ算フ斯ル女子實業學校ニ於テハ日本人トシテ最モ必要ナル國語教育指導ニ要スル教科書ヲ一トシテ見出シ得ス

資源愛護上ノ影響

五種類選定直前ニ於テ各發行元ノ「ストック」概算ハ大約六百二十萬圓ニ上レリ其ノ中半數カ當選シタリトスルモ尙三百萬圓ハ紙屑同然ナリ當局ハ該統制ヲ日本内地ニノミ止メシカ其ノ後外地タル朝鮮、臺灣、樺太ハ獨自ノ立場ヨリ夫々之ニ倣ヒ滿洲國ニ於テモ之ニ準據セル爲此ノ「ストック」ハ今ヤ全ク其ノ商品價值ヲ喪失シタリ斯クシテ此ノ「ストック」ニ要シタル用紙、針金、糊ノ資源ハ路傍ニ打棄テラレ加フルニ全國中等學校生徒ハ増加スル關係上所要冊數ハ前年ヨリ増シ前記無價值ノ「ストック」ニ要スル資源ト生徒ノ増加ニ伴フ資源トカ重ナリテ現在用紙ニ付テモ前年ヨリ五割方即チ五百萬「ボン」以上ノ増加ヲ見ルニ至レリ用紙難

僅々一二週間ニ限ラレ當時十一月十日ノ紀元二千六百年奉祝典ヲ直前ニシテ校務ニ追ハレテ發行所ハ見本ヲ送ル暇モナク突然ニテ發行所ハ見本ヲ送ル暇モナク實物ヲ見スシテ採用シタル學校サヘ多數アリト聞ク尙他ノ一例ヲ見ルニ實業學校用國語教科書ニ在リテハ五種類カ五種類總テ男子用ノモノナリ即チ

藤 村 作 著
垣 内 松 三 共 著
西 尾 實 著
芳 賀 矢 一 共 著
上 田、長谷川補訂
八 波 則 吉 著
玉 井 幸 助 著

カ叫ハレル今日實ニ有害無益ノ獨善的統制ノ弊害ナリ
ハ 營業上ノ影響
理由モ言ハレス突風のニ行ハレタル統制ニ因リ發行所ノ蒙リタル實害ハ極メテ甚大ナリ而モ一錢一厘ノ補償モナク賣捌カウニモ買手無キ「ストック」ヲ多數擁シ實ニ慘メナル狀態ナリ願ルニ邦家數十年ノ中等教育ニ必要ナリシ教科書ハ皆民間發行ノモノナリサレハ民間カ貢獻セシ功績ハ甚大ナリト謂ハサルヘカラス當局カ此ノ功績ヲ一切認メス勝手氣儘ニ統制ヲ行ヒシハ義理人情ヲ辨ヘサルコト甚シ文教ノ府ヲ司ル文部當局トシテ此ノ點以テ如何トナス

ニ 配給上ノ影響
一口ニ中等教科書發行所ト謂フモ其ノ數百ヲ以テ餘リアリ其ノ内四五軒ノモノカ全賣上量ノ七八割ヲ占ハスル現狀ナリ斯ル大會社ニ於テハ配給ノ萬全ヲ期スル爲周年印刷、製本ニ力ヲ盡シ居リシモ昨夏ノ統制ニ因リ八、九、十、

十一ノ四月間休業ノ已ムナキニ至リ漸ク昨年末ヨリ印刷、製本ノ準備ニ掛リシモ時既ニ遅ク用紙難、電力難、勞力不足等ノ難關ニ逢著シテ新學期ノ配給ハ全然見込ノ立タサル現狀ナリ之ニ對シ當局ハ五種類選定後直ニ發行元ヨリ誓約書ヲ取リシモコハ議會ニ於ケル自己防衛ノ一手段ナリト社會ノ嘲笑セル所ナリ

之ヲ要スルニ今回文部當局ノ行ヘル中等諸學校教科書統制カ如何ナル目的ニ基クモノナルカ其ノ判斷ニ迷ハサルヲ得ス
三 將來ノ對策
一 今回ノ措置ハ何ヲ目的トシタルヤ又急迫ノ事情アリシヤ
二 中等教科書發行ニ關シ將來如何ナル抱負アリヤ
三 國定ニスル意思アリヤ
四 國定トスルナラハ補償ノ意思アリヤ
五 發行元ニ對シ企業合同ヲ爲サシムル意思アリヤ
六 本措置ハ文部當局ノ獨斷ニ依リ省外ニ於テ學者、教育者等ノ意見ヲ徵シタル事實ナシ獨斷ノ弊大ナリト認ムルカ如何

右及質問候也
昭和十六年二月二十七日
內閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長 小島松壽殿
衆議院議員 岡田忠彦君外一名提出中等教科書統制ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員 岡田忠彦君外一名提出中等教科書統制ニ關スル質問ニ對スル答辯書
一、檢定濟教科用圖書ハ其ノ種類極メテ多ク(六千餘種)而モ多年ニ亘リ其ノ發

行並供給自由競争ニ委ネラレ來リシ關係上諸弊尠カラザル現狀ニアルヲ以テ之ガ弊害ヲ除去スルト共ニ戰時下國策上物資ノ消費規正ノ緊急ヲ要スル實狀ニ鑑ミ速ニ之ヲ統制ノ上昭和十六年度使用教科用圖書ノ用紙ヲ確保スルノ必要アルヲ以テナリ
二、本省著作標準教科用圖書ノ編纂ヲ擴充スルト共ニ選定教科用圖書ノ改善進歩ヲ圖リ以テ時代ノ進展ニ即應セシムル方針ナリ
三、現在ノトコロ國定トスル意思無シ
五、目下慎重考慮中ナリ
六、本措置ハ事前ニ於テ各種ノ觀點ヨリ考究シ綿密ナル條件ヲ定メテ圖書ノ選定ニ當リ諸情勢ヲ慎重考究ノ上豫メ當業者ニモ通告シテ實行シタルモノニシテ獨斷ノ弊アリトハ思料セズ
右及答辯候也

昭和十六年二月二十七日
文部大臣 橋田 邦彦
全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十六年二月二十五日
提出者 寺田 市正

全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關スル質問主意書
一 全國神職會ハ財團法人ナレトモ政府カ其ノ設立ヲ助成シ且現ニ補助シテ指導監督スヘキモノト思フ果シテ然ルヤ政府ノ所見如何
二 全國神職會ハ昭和十五年十一月全國神職會編トシテ「神社讀本」ト題スル著作物ヲ刊行シ「廣ク皇國臣道ノ規範タルヘキ公民教育用トシテ世ニ送ル事トシ」更ニ「廣ク國民一般ニ正シキ神社觀念ト皇道ノ本質ヲ一層普及徹底セシメムトスル趣旨ヲ以テ全國神職會ノ紀元二千六百年奉祝記念事業ノ一トシテ上

梓セシモノナルコトハ該讀本巻頭ノ序文及例言ニ明記シタル所ニシテ時節柄洵ニ以テ適切有效ニシテ且崇高卓越ナル趣旨ノ下ニ編纂刊行セラレタルモノト解セラル政府ノ所見如何

三 該讀本巻頭ノ例言ニハ全國神職會ノ名ヲ以テ「本書ノ編纂ニ際シテハ國學院大學長文學博士河野省三東京帝國大學教授文學博士宮地直一國學院大學教授文學博士植木直一郎國學院大學教授佐伯有義宮内省掌典職祭事課長星野輝興ノ諸氏（順序不同）ニ編纂委員ヲ委嘱シ委員會ニ於ケル審議ノ結果原稿執筆ニハ河野博士ノ勞ヲ煩ハシタ茲ニ編纂委員各位並ニ關係諸方面ノ御盡力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表ス」ト記シタルニ徴スレハ是等當代ノ學者權威者カ其ノ責任ノ重大ナルニ鑑ミ眞摯ニ編纂委員會ノ審議ヲ盡シテ編纂サレタルモノト認メサルヲ得ス政府ノ所見如何

四 該讀本ノ五十六頁ニ掲載シタル可愛山陵、吾平山上陵、高屋山上陵ノ三山陵ノ寫眞版ハ三山陵何レモ全ク虚偽ノ寫眞ヲ掲ケテ其ノ眞實ノ山陵寫眞ヲ掲載シ居ラサルハ誠ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナルカ政府ハ是等虚偽ノ著作刊行物ヲ何故發賣頒布セシメ居ルカ又斯ノ如キ虚偽ノ著作ヲ以テシテ該讀本ノ所謂「益々惟神ノ大道ヲ闡明シ國體觀念ヲ明徴ニシテ愈々皇道ノ本義ヲ發揚シ日本精神ヲ中外ニ宣布シ」得ルモノト認ムルヤ政府ノ所見如何

五 三山陵ノ虚偽ナル寫眞版圖ハ單ニ編纂委員又ハ原稿執筆者等ノ簡單ナル粗漏ニ基ク見間違ニ依リテ生シタル誤謬ト認メ難キモノアリ即チ該著ノ編纂委員及執筆者等ハ當代ノ學者權威者ニシテ夙ニ三山陵等ニハ親シク參拜シ居ル筈ナリ又假令未タ參拜セシコトナシトスルモ當該寫眞ハ何時カ何處カニ於テ拜觀セシコトアルヘキ筈ナリ又假リニ其

ノ寫眞ハ拜觀セシコトナシトスルモ該讀本ニ掲ケタル虚偽ノ寫眞ハ誠ニ恐懼ニ堪ヘサル所ニシテ極メテ粗雑ノモノナレハ一見直ニ何人ヲ以テスルモ其ノ眞偽ヲ判別若ハ發見スヘキ筈ノモノナリ況ヤ編纂委員等ハ斯道ノ大家ナレハ特ニ山陵ニ對スル敬虔眞摯ノ念ヲ以テ深ク萬全ノ注意ヲ拂ヒ編纂シタル筈ナリ唯之ヲ漫然ト其ノ寫眞ヲ見違ヒ又ハ取違ヒタリトミ稱シテ恬然タルカ如キハ餘リニモ恐懼ニ堪ヘサル次第ナラスヤ政府ノ所見如何

六 該讀本五十五頁ニハ皇孫瓊杵尊彦火火出見尊鷲草葺不合尊相次イデ西邊ヲ治メ給ヒトアリテ其ノ次ノ頁ニ三山陵ノ虚偽ナル寫眞ヲ順次三枚横ニ並ヘテ掲載シ居ルノミ而シテ該讀本ノ百十四頁ニハ「神代ニ於ケル日向三山陵ニ次イデ云々」ト記載スルノミニテ其ノ神代ノ日向ハ和銅年間ニ之ヲ割キテ大隅薩摩ヲ置キタルコトヲ記サス恰モ現在ノ日向ヲ以テ神代ノ日向ト同一ニ誤認セシムルカ如キモノアリ而モ此ノ神代三山陵カ現ニ鹿児島縣内ニ嚴存スルコトニ關シテハ書中何處ニモ記載シ居ラリサルナリ

又本文ニハ「皇孫瓊杵尊彦火火出見尊鷲草葺不合尊相次イデ云々」ト順次記載シ居ルニ拘ラス虚偽ノ寫眞圖ハ可愛山陵、吾平山上陵、高屋山上陵ト順次横ニ並ヘテ掲載シタルノミナレバ恰モ讀者トシテ本文ニアル三代ノ尊神ノ山陵カ順次三山陵ナルカノ念ヲ抱カシメ重ネテ誤謬ニ陥ラシムル虞アリ何故ニ斯ノ如キ虚偽ノ寫眞圖ヲ殊更ニ順序ヲ取違ヘテ挿入シアルカ即チ皇孫瓊杵尊彦ノ御陵カ可愛山陵、彦火火出見尊カ高屋山陵、鷲草葺不合尊カ吾平山上陵ト明瞭ニ本文ニ記載スルカ或ハ寫眞圖面ニ夫々記載スルニアラサレハ虚偽ノ寫眞ヲ以テシテ尙且高屋山上陵ト吾平山上

陵トヲ誤謬ニ陥ラシムルモノアリ斯ノ如キハ單ニ粗漏トノミ安斷シ去ルヘク事態ハ餘リニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナリ政府ノ所見如何

七 該讀本ハ後ニ昭和十六年二月一日修訂第十版發行ニ當リ始メテ三山陵ノ虚偽ノ寫眞ヲ取替ヘ眞實ノ寫眞ヲ掲載シ居ルモ本文ノ記事及挿入寫眞ノ順序等ニ關シテハ依然何等ノ改訂修正ヲ加ヘ居ラス讀者ヲシテ尙其ノ所在地及三代ノ尊神ト三山陵トヲ明確ニ判知セシムルコトヲ得シメサルモノアリ殊ニ修訂第十版迄ノ所謂虚偽誤謬ノ刊行ハ何千部何萬部ナリシカ又何レノ方面ニ發賣頒布セラレシモノナルカ尙修訂改版ニ際シテハ其ノ以前ノ虚偽誤謬ノ分ト引替ヘタルカ又引替ヘツツアラハ現ニ何千何百部丈之ヲ引替ヘタルカ其ノ引替ヘタル書籍ハ如何ニ之ヲ處分シタルカ全國神職會ハ各府縣神職會ニ依託シ之ヲ官國幣ノ各神社ニ頒布セシメ管轄シテ之ヲ引替ヘタルカ容易ナルヘク又普通書籍店頭ニテ販賣セシモノト雖其ノ殘部ハ直ニ引替ヘ得ル筈ナリ

然ルニ本質問書提出者カ昭和十六年二月二十三日東京市丸「ビル」内ノ雜誌書籍店ニ於テ購求シタル該書ハ依然トシテ虚偽誤謬ノモノ即チ修訂十版前ノモノアリ之ヲ以テ見レハ今尙其ノ誤謬虚偽ノ著作物ヲ東京市中ニ於テ公然販賣シ居リテ少シモ其ノ修訂ノ分ト引替ヘ居ラサルカ如ク見受ケラレ全國神職會ノ眞意ヲ解スル能ハサル所ナリ斯ノ如ク虚偽誤謬アルノミナラス而モ肝腎ノ點ヲ明記セサルカ如キ著作物ハ却テ所謂臣道ノ規範タルヘキ公民教育上有害ニシテ且國體觀念ヲ明徴ヲ傷ヒ皇道ノ本義、日本精神ノ發揚宣布ヲ害スルコト甚シキモノアリ宜シク速ニ該書ノ刊行頒布ヲ禁止シ若ハ其ノ改訂補修ヲ命ジ之ニ反ストキハ絶版ニ付スヘキモノ

ナリ又全國神職會ニ對シテモ深ク注意戒飭ヲ加ヘサルヘカラサルモノナリト認ムルカ政府ノ所見如何

八 該讀本ハ其ノ包紙帯包ニ於テ文部省推薦ト明記シ居レリ文部省カ果シテ該讀本ヲ公民教育上ノ好資料トシテ推薦シタルモノトセハ該書籍ノ内容ニ關シテモ當然責任ヲ持ツヘキモノナルヘシ該讀本ノ五十五頁ニハ「時ニ草葺不合尊ノ第四子狹野尊即チ日本磐余彦尊ハ云々（中略）御年四十五歳ニ及ヒテ皇兄皇子等ト御熱議ヲ遂ゲ給ヒヨ（御東征ノ大軍ヲ率ヒテ日向國宮崎ノ地ヲ進發シ給フ）テアル、神日本磐余彦尊ハ即チ神武天皇テアラセラル云々」ト明記シアリ然ルニ文部省ハ昨十五年即チ紀元二千六百年ニ於テ神武天皇ノ御聖蹟地ヲ調査シ以テ之ヲ顯彰セムカ爲メ「當代ノ學者權威者ヲ委員ニ選任シテ殆ト一年間ニ及ヒテ或ハ多數ノ古今ニ互ル文獻ニ據リ或ハ數十回委員ノ實地出張又各府縣ヨリ調査資料等ヲ徵收シテ種々調査セシ結果和歌山縣奈良縣大阪府岡山縣福岡縣等七箇所ニ互リテ所謂聖蹟地ノ中途及終末ノ地點ヲ決定シ之ヲ發表シタルモ最モ肝腎ノ軍議ヲ擬サレタル高千穗宮址及愈々軍船等ヲ編成シテ進發セラレタル地點等ニ關シテハ遂ニ該調査委員會ハ決定ヲ見ルニ至ラス文部省亦之ヲ決定シ得サリシ旨ヲ天下ニ發表シタルコトハ今尙國民一般ノ甚ク以テ遺憾トスル所ナリ然ルニ此ノ「神社讀本」ヲ編纂シタル全國神職會及該書編纂委員等ハ何ノ據ル所アリテ茲ニ率然トシテ此ノ大問題ヲ安斷スルノ舉ニ出テタルカ甚タ解スルコト能ハス文部省カ昨一年間ヲ通シテ多數ノ經費ヲ用ヒ多數ノ委員ヲ擧ケテ爲シタル調査研究ヲ以テシテモ其ノ結果ハ不幸ニシテ決定シ得サリシ重點中ノ其ノ一タル大軍進發ノ地ヲ簡單ニ宮崎ト斷定セシ著作物ヲ

ナリ又全國神職會ニ對シテモ深ク注意戒飭ヲ加ヘサルヘカラサルモノナリト認ムルカ政府ノ所見如何

文部省カ推薦シタリトセハ文部省ハ間接ニ裏ヨリ昨年未決定トシテ發表セシモノヲ却テ承認スルノ結果トナラサルカ換言スレハ文部省ハ昨十五年紀元二千六百年ニ於テハアレ程大規模ノ委員會等ヲ設ケテ公式ニ調査セシトキハ結局表面ニハ其ノ大軍進發ノ地點ハ決定シ難シト斷定シ置キナカラ一年ヲ經ルカ經サルニ本年ニ入りテ早くモ裏ヨリ間接ニ宮崎ト決定スルノ結果トナリテハ是レ實ニ由々シキ事ニアラサルカ文部省カ斯ノ如キ虛偽ニシテ誤謬多ク粗漏輕率ノ記事ヲ盛リテ公民教育ヲ害スルノ著作物ヲ推薦スルカ如キハ矛盾撞著ノ甚タシキモノニシテ言語道斷ト謂ハサルヘカラス政府ノ所見如何

九 神代三山陵及 神武天皇御聖蹟地等ニ關シテハ現在公式ニハ下記三種ノ見解ヲ須フルヲ普通トスルカ如シ即チ參考ノ地、傳説ノ地、確定ノ地ナリ第一確定ノ地ハ從來皇室又ハ政府ニ於テ特ニ調査機關ヲ設ケテ研究調査ノ結果決定セシ場所ヲ太政官布告等ノ如キ法令又ハ示達ヲ以テ公式ニ確定シタルモノナリ即チ神代三山陵ハ明治七年六月十日ヲ以テ可愛山陵(瓊瓊杵尊御陵)ハ鹿兒島縣薩摩郡川内町現在ノ川内市宮内、高屋山上陵(彦火火出見尊)鹿兒島縣始良郡溝邊村(鹿兒島縣薩摩郡始良村上莫不合尊)ハ鹿兒島縣肝屬郡始良村上名ト御治定相成リタルニヨリ既ニ確定ノ地トナリタルナリ第二ノ傳説ノ地ハ古來里人ノ口傳傳稱等ニ基ケ場所ニシテ別ニ文獻ノ徵スヘキモノナク結局何レトモ確定シ難キ地域ナリ明治二十八年十二月四日附ヲ以テ宮内省陵發第一號ニ依リテ始メテ此ノ傳説地ヲ認ムルニ至レリ即チ宮崎縣東臼杵郡北川村長井ノ北川陵墓傳説地(可愛山陵傳説地)及宮崎縣南那珂郡鶴戶村宮ノ浦ノ鶴戶陵傳説地(吾平山上陵傳説地)等ナリ第三ノ參考地ハ更ニ根據薄弱ニシテ文獻ハ素ヨリ傳説ノ如キ何等存在セサルモノナレトモ大正十五年皇室陵墓令出ツルニ及ビ御陵參考地トシテ取扱フ地域ナリ即チ宮崎縣兒湯郡妻町三宅ノ男狹嶺塚陵墓參考地及同郡同地ノ女狹嶺塚陵墓參考地ノ如シ斯ノ如ク既ニ決定セシ上ハ一般國民ハ勿論政府ノ官吏ハ特ニ此ノ三種ノ區別ノ稱號ヲ嚴守シテ彼此紛更スヘカラサルナリ然ルニ近時往々之ニ類スルモノアルハ遺憾ナリ仍テ文部省カ昨年著手セシ聖蹟調査ノ如キモ 神武天皇ノ軍議セラレタル高千穂宮址鼓軍船ヲ整ヘテ進發セラレタル地點等モ假ニ最善ノ確定ノ地ヲ選定シ得ストセハ改善三善ヲ取リテ第二ノ傳説地又ハ第三ノ參考地ノ如キモノニテモ選定シ得タルヲ答ナルニ何故カ一言モ之ニ觸ルコトナカリシハ當時世間ノ非難ヲ受ケタル所ナリ仍テ政府ハ今回更ニ調査研究シテ參考地又ハ傳説地等ニテモ選定發表シ置クノ必要アリト信ス政府ノ所見如何

十 政府カ昨年神祇院ヲ設ケテ神社行政ノ機構ヲ擴大強化シタルハ洵ニ機宜ニ適シタル措置ト云フヘシ宜シク更ニ該制度機構等ノ根本的改革整備ヲ實現シ全國官國幣社及府縣村郷社等ノ社格問題ヲ始メ特ニ其ノ内規ト稱スル不文律ノ如キモ速ニ時宜ニ適シタル改廢ヲ加ヘ一般國民ノ敬神崇祖ノ念ヲ昂揚セシメ以テ國體觀念ヲ明徴ニシ皇國ノ本義ト日本精神ノ發揚宣布ニ努ムルト共ニ更ニ一面全國ノ神職官ニ對シ其ノ待遇ヲ改善シ進ムテ尙相當ノ時間ト經費トヲ與ヘテ神代ノ三山陵及歷代ノ御陵墓等各ハ勿論伊勢神宮ヲ始メ全國ノ官國幣各神社ニ巡拜セシメ史蹟ヲ實地ニ調査研究スルノ機會ヲ與ヘテ其ノ認識ヲ新ニシ以テ所謂再教育ヲ爲スノ必要アルカ如シ政府ノ所見如何

右及質問候也

昭和十六年二月二十七日

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿

衆議院議長 小山松壽殿

衆議院議員 寺田正君提出全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書進候

(別紙)

衆議院議員 寺田正君提出全國神職會編「神社讀本」ノ虛偽誤謬ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、全國神職會ハ內務省ニ於テ其ノ創立ヲ助成シタル團體ニ在ラズ、又補助金ヲ交付スル團體ニ在ラズ、民法ノ規定ニ依ル主務官廳トシテ監督ヲ行ヒツツアル團體ナリ

二、神社讀本ハ專ラ公民教育用トシテ時局柄必要ナルモノト認メ全國神職會ニ於テ編纂シタルモノト考フ

三、該書ノ記事ニ關シテハ各委員ニ於テ相當審議ヲ盡シタルモノナリト思ハル

四、神社讀本五十六頁掲載ノ三山陵ノ寫眞版ハ御治定ノ山陵ニ在ラザルヲ以テ之ガ改訂ヲ行フ様注意ヲ與ヘ全國神職會ハ之ヲ修正シタリ

五、該寫眞ノ挿入ハ印刷土ノ手落ちニ基クモノノ如シ

六、本書ハ全體ヲ通ジテ簡略ナルモノナルヲ以テ山陵ノ所在地ヲ記載セザリシコト等ニ付テハ強テ問フニ及バザルベシ

七、修訂前ニ於ケル印刷部數ハ一〇、〇〇〇部ニシテ内五、〇〇〇部ハ全國神職會ニ於テ受領シ其ノ一部ヲ關係方面ニ寄贈シ殘部五、〇〇〇部ヲ一般ニ發賣シタリ之等ニ對シテハ正誤表等ニ依リ能フ限リ訂正ノ方途ヲ講ゼシムベシ

八、神社讀本ニ關スル御質問ハ本年二月一日發行ノモノヲ以テ推薦セシモノニシテ御質問ノ點ハ該書ニハ既ニ修正ズミナリ

九、曩ニ文部省ニ於テ紀元二千六百年奉祝會ノ委囑ニ依リ施行セシ 神武天皇聖蹟調査ニ於テハ高千穂宮ニ關シテモ慎重ニ調査ヲ遂ゲタルモ其ノ宮址ト傳ヘラルル箇所ハ何レモ所傳ノ徵證十分ナラザリシ爲遺憾ナガラ今日其ノ地點地域ヲ以テ聖蹟ノ箇所ト決定スルコト能ハザリシナリ、而シテ此等ノ箇所ハ所傳ノ徵證ノ現狀ニ徴シ今直チニ之ヲ聖蹟ノ傳説地又ハ參考地ト決定シ之ヲ顯彰スルニハ尙相當考究ノ餘地アルモノト認メタリ、然レドモ文部省ニ於テハ現ニ御代聖蹟ノ調査及保存ノ事業ヲ施行申ナルニ依リ之ガ調査ニ付テハ常ニ考慮スル所存ナリ

十、神祇院ノ充實、神社ノ制度、神職ノ待遇等ニ付テハ鋭意之カ整備改善ニ努力ヲ拂ヒツツアリ

右及答辯候也

昭和十六年二月二十七日

內務大臣 男爵平沼騏一郎

文部大臣 橋田 邦彦

木造建物防火改修事業促進ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十六年二月二十五日

提出者 塚本 重藏

木造建物防火改修事業促進ニ關スル質問主意書

支那事變ノ處理尙大東亞共榮圈ノ確立ノ遂行上國際情勢ノ推移ハ重大ナル決意ヲ要スル事態發生ノ豫斷ヲ許サシ今ヤ高度國防國家ノ建設急ナルヲ覺ユ此ノ國防國家建設ノ一翼ハ近代戰ノ特徵ニ依リ防空ノ充實完備ニアリ

軍防空ニ就テハ暫ク措クトシ民防空ニ於テハ我カ都市カ木造ニシテ且密集セル形態ニ鑑ミ防火ニ重點ヲ置クヲ定説トスル燒夷彈被害ヲ局部ニ防遏セスムハ大都市

ハ一回ノ空襲ヲ以テ灰燼ニ歸スルヤモ聞
ラレス此ノ燒夷彈攻撃ニ對シ都市ノ城砦
化ハ防火改修ノ他術ナク衆論茲ニ一致シ
寧ロ都市防衛上焦眉之急トシテ之カ急施
ヲ要望セラルル所ナリ
○政府ハ昭和十四年度ヨリ少額ノ國庫
補助金ヲ交付シ各都市ノ助成事業トシテ
防火改修事業ヲ始メタルモ其ノ區域狹少
改修家屋少數所謂爲ササルニ優ル程度ノ
モノニシテ都市防衛ノ根本對策トシテハ
其ノ成果遲々タル憾ミ深キヲ感スルナリ
今日ノ國際關係ハ複雜微妙ニシテ支那事
變ハ漸次世界大戰ノ性格ヲ帶ヒムトス何
時新シク列強ト干戈ヲ交ヘルヤモ圖リ難
キ急迫セル情勢トナリツツアリ
(一) 緊急ニ防空對策ノ樹立ヲ叫ハルル
ノ秋政府ハ果シテ防空ノ重責ヲ果シ得
ルノ確信ヲ以テ對策ノ萬全ヲ期シツツ
アリヤ
(二) 昭和十四年度ヨリ開始セラレタル
防火改修事業ノ實績ニ徴スルニ此ノ事
業カ何等法ノ根據ナキ爲計畫區域ニア
ルニモ拘ラス未タニ改修工事ニ加入セ
サル市民ト實施ヲ拒ミタル都市カ今日
モ尙存在ス
施工ニ當ツテハ利益寡少ノ故ヲ以テ之
ヲ請負フ業者少ナク未タニ著工ノ運ヒ
ニ至ラサル都市モアリ斯ノ如キ改修事
業ノ情勢下ニ在ツテ之カ進捗ヲ獨リ各
市長ノミニ責任ト爲スニ於テハ防空防
火ノ完璧ヲ期スルヲ得ス
政府ハ之ノ現狀ヲ十分認識シ居ルヤ否
ヤ
(三) 昭和十六年度豫算ニ計上セシ防火
改修事業費ヲ以テ防空防火ノ所期ノ目
的ヲ達シ得ルトノ確信ヲ有スルヤ否ヤ
(四) 防空防火對策ノ重要政策タル防火
改修ヲ急速ニ實施ヲ舉クヘク「防火改
修法案」ヲ上程ノ用意アル如ク巷間傳
ヘラレタルニ未タニ法案ノ提案ヲ見サ
ルハ如何ナル理由ニ依ルモノナリヤ昭

和十六年度ノ防火改修事業モ前年度ニ
準シテ再ヒ市長ノ勸奨ト家屋所有者ノ
時局認識ニ期待シテ任意協定ニヨル組
合結成ヲ以テ施行セムトスルハ其ノ勞
ノミ多クシテ其ノ成果今日ノ急ニ合致
セスカ圓滑迅速ナル運営ハ至難ナリ
改修事業ノ重要性ヲ國民ニ認識セシメ
市長ノ執行ヲ容易ニスヘク何故ニ政府
ハ國際政局ト國內軍備トヲ照應シテ
「防火改修法案」制定ノ英斷ニ出デサリシ
ヤ
(五) 第一線軍備ト同等ノ意義ヲ有スル
國內軍備ノ防火改修事業ヲ唯々國民ノ
愛國心ニノミ依存スルハ國情ニ付深大
ナル認識ヲ缺クモノナリト思考セラル
政府ノ所見如何
(六) 急激ナル國際關係ノ變化ニ徴シ防
空ノ急務タル所以ヲ政府ハ認識シ即時
防空防火ノ設備資材整備事業ト防火改
修事業ト擴充策ヲ決定シ之カ追加豫算
案ト防火改修法案トヲ本期議會ニ上程
スルノ要アリト認ム政府ノ所見如何
右及質問候也
昭和十六年二月二十七日
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
衆議院議長 小山松壽殿
衆議院議員塚本重藏君提出木造建物防火
改修事業促進ニ關スル質問ニ對シ別紙答
辯書差進候
(別紙)
衆議院議員塚本重藏君提出木造建物防
火改修事業促進ニ關スル質問ニ對スル
答辯書
一、現下ノ緊迫セル國際情勢ニ鑑ミ我が
國民防空態勢ハ未ダ充分ナラザルモノ
アルヲ以テ本年一月政府ニ於テハ緊急
ニ實施スベキ防空施策ノ根本的事項ヲ
確定シ之ニ基キ目下夫々應急ニ實施ス
ベキ具體的事項ヲ定メ其ノ具現ニ努メ
ツツアリ
二、防火改修ノ實績ニ徴スルニ其ノ進捗
甚ダ困難ナリト認ムルモ資材ノ配給、
勸奨ノ方法宜シキヲ得バ必ズシモ所期
ノ目的ヲ達成シ得ズトハ認メズ
三、昭和十六年度豫算ニ計上セシ防火改
修事業費ノミヲ以テシテハ直ニ防空防
火上完璧ヲ期シ能ハザルモ他ノ防火施
設ト相俟ツテ逐次所期ノ目的ヲ達セン
トス
四、防火改修法案ハ目下研究考慮中ナリ
五、國民防空ノ根本精神ニ基キ飽クマデ
自衛防空ヲ基調トスルヲ妥當ナリト信
ズ
六、防火改修法案ヲ提出セザリシ理由ハ
四ニ於テ述べタルガ如ク目下研究中ナ
リ
設備資材整備事業ノ補助費ハ資材並ニ
事業進捗ノ狀況ニ依リ考慮スベシ
右及答辯候也
昭和十六年二月二十七日
内務大臣 男爵平沼騏一郎
○議長(小山松壽君) 休憩前ニ引續キ會議
ヲ開キマス、先程ノ植原君ノ演說中、穩當
ナラザル言辭ハ、本人ニ於テ訂正致サレマ
シタ、御諒承ヲ願ヒマス
貴族院ヨリ本院回付ニ係ル政府提出、刑
法中改正法律案ニ付キ、兩院協議會ヲ開ク
コトヲ求メラレマシタ、又同時ニ同院ヨリ
兩院協議委員ノ數ハ十名トナスニ決シタル
旨ノ通牒ヲ受領致シマシタ、此ノ協議委員
選舉ノ件ヲ御諮リ致シマス
刑法中改正法律案兩院協議委員ノ選舉
○服部崎市君、兩院協議委員ハ議長ニ於テ
直チニ指名セラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセスカ
(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ兩院協議委員ハ議長ニ於テ指名ス
ルニ決シマシタ、直チニ指名致シマス

刑法中改正法律案兩院協議委員
綾部健太郎君 内田 信也君
勝田 永吉君 河上丈太郎君
熊谷 直太君 小泉又次郎君
砂田 重政君 牧野 賤男君
紫安新九郎君 八並 武治君
只今指名致シマシタ協議委員諸君ハ、直チ
ニ議長應接室ニ御參集ノ上、議長、副議長
各一名ヲ五選セラレンコトヲ望ミマス
本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問一乃至六
ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシ
タ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス
○服部崎市君 質問七ハ之ヲ延期シ、明二
十八日定刻ヨリ特ニ本會議ヲ開クコトト
シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミ
マス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセスカ
(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議
事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス
午後七時十四分散會

衆議院議事速記第十五號中誤植
二二五頁一段一三行「見島町」ハ「見島村」ノ誤植
衆議院議事速記第十六號中正誤
頁 段 行 誤 正
二四〇 二 二五 存スマ 存スル
二四〇 四 六 成緒 成績
内閣印刷局